

第2次
東大阪市
スポーツ
推進計画

ENJOY SPORTS! ENJOY LIFE!

誰もがいつでもいつまでも
スポーツにトライできるまち ひがしおおさか

つくる・つながる・ひびきあう
感動創造都市・東大阪

目次



序章 基本理念

第1章 東大阪市スポーツ推進計画とは

1. 計画策定の趣旨(目的).....	5
2. スポーツの価値と可能性.....	5
3. 本計画におけるスポーツのとらえ方.....	6
4. 本計画の位置づけ.....	7
5. 計画期間.....	7
6. SDGs(持続可能な開発目標)との関係.....	8
コラム①:『eスポーツ』.....	9

第2章 スポーツ推進に関する状況

1. 国におけるスポーツの推進.....	11~12
2. 東大阪市におけるスポーツの推進	
(1) 近年のスポーツ推進のあゆみ.....	13~14
(2) 花園ラグビー場に関する主な歴史.....	15~16
3. 東大阪市が誇るスポーツ資源	
(1) 大規模スポーツ施設.....	17~18
(2) 特色のあるスポーツ施設.....	18
(3) 主なスポーツイベント.....	19~20
(4) トップスポーツチーム・市内スポーツ団体.....	21~23

第3章 プランづくり ～振り返りと課題～

1. 前計画の実績.....	25～27
2. スポーツ推進に向けた課題.....	28

第4章 基本方針／施策指標

1. 施策体系図.....	30
2. 基本方針	
基本方針① 誰もがスポーツにアクセスできるまちづくり.....	31～37
基本方針② スポーツのまち東大阪の魅力創出.....	38～45
コラム②:ラグビー憲章～ラグビーの「5つのコアバリュー」～.....	46
3. 施策指標.....	47～48

第5章 計画推進のために

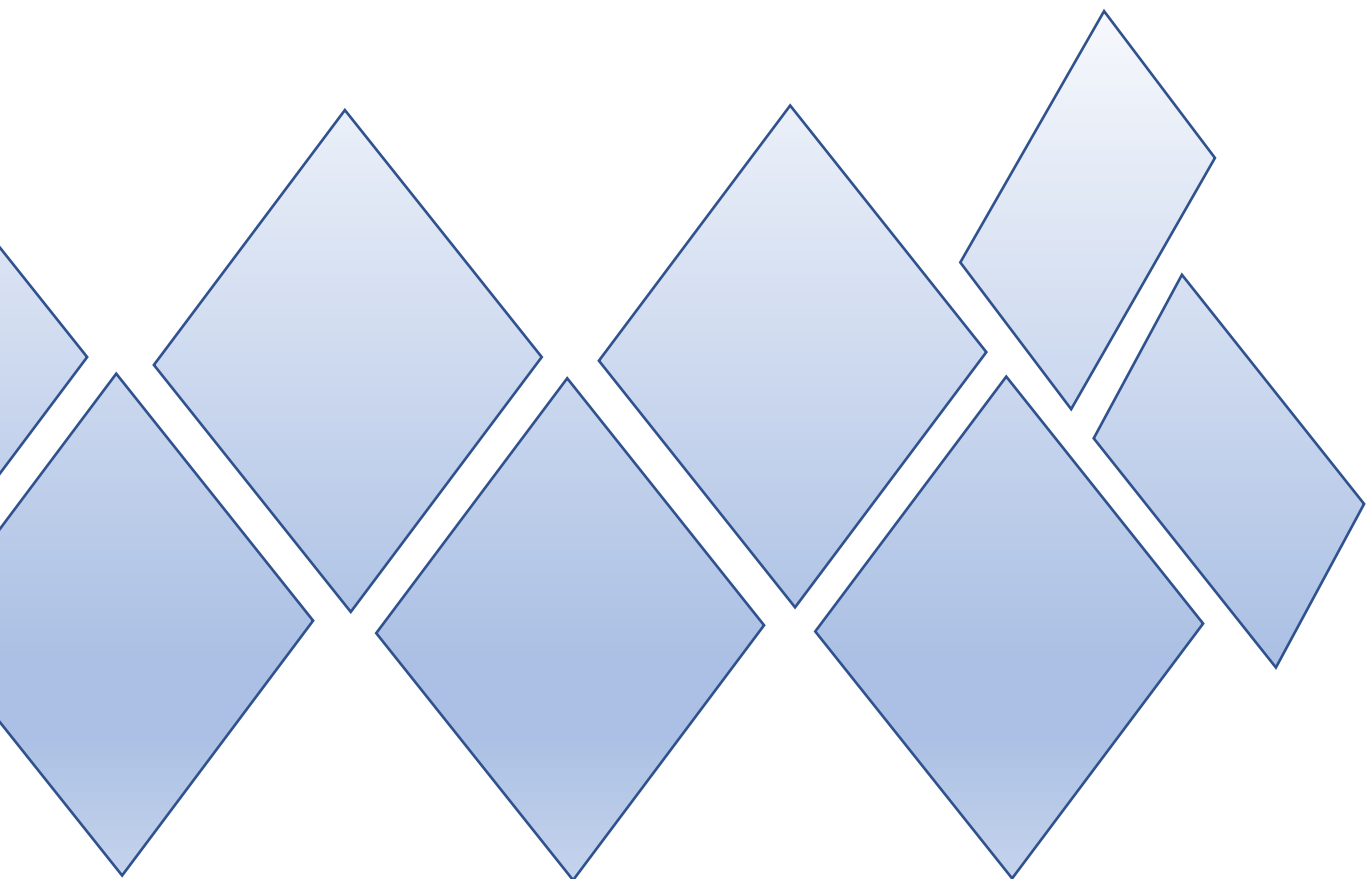
1. 情報発信の強化.....	51
2. 庁内における連携.....	51
3. 推進体制の強化.....	52
4. 財源の確保.....	52
5. 進行管理.....	52

資料編

1. 主なスポーツ施設.....	55～56
2. 主なスポーツイベント.....	57～58
3. 東大阪市スポーツみらいアンバサダー.....	59
4. 東大阪市スポーツ表彰制度.....	60
5. 連携協定企業.....	60

序章

基本理念



基本理念

ENJOY SPORTS! ENJOY LIFE!

～ 誰もがいつでもいつまでも
スポーツにトライできるまち ひがしおおさか ～

スポーツをすることで、心身の健全育成や体力・運動技能の向上が図られます。また、運動不足から生じる生活習慣病の予防や社会保障費の削減効果が期待でき、健康寿命の延伸による健康長寿社会の実現にもつながりません。

そして、スポーツが日々の活力や生きがいの創出につながるだけでなく、地域コミュニティの醸成や世代間交流に貢献し、活力に満ちた地域社会の形成が期待できます。さらに、国際大会や全国大会等においてトップスポーツチームやトップアスリートが活躍する姿は、夢や感動を与え、自らスポーツを行うきっかけにもつながります。このようにスポーツは、健康増進をはじめ、人と人をつなぐ、夢や感動を与えるなどの様々な可能性を持っており、人々の人生に彩りを与えてくれます。

スポーツ庁が定める「スポーツ基本計画」では、「『する』『みる』『ささえる』を通じて、スポーツに『自発的』に参画し、『楽しさ』や『喜び』を得ることは、人々の生活や心をより豊かにする『ウェルビーイング※』の考え方にもつながるものである。こうした『スポーツの価値』を原点として大切にし、更に高め、生涯を通じてスポーツを『好き』でいられる環境を整えていくことが不可欠である。」とされています。

本計画では、一例ですが「子どもの頃は純粋にスポーツを楽しみ、学生時代はスポーツに明け暮れ、社会人となり、ドリンク片手に同僚とスポーツ観戦を楽しみ、子育て世代は子どもの試合観戦に熱くなり、マスタース世代は草野球をしたり、プロ野球中継を楽しみ、高齢者においては孫の試合観戦や、ウォーキングや登山で地域コミュニティとつながる」このような一生涯においてスポーツを「好き」で「楽しむ」、人生そのものを幸福にするスポーツの価値にフォーカスします。

ライフスタイルに応じて、年齢や性別、国籍、障害の有無にかかわらず、誰もがいつでも、いつまでもスポーツを身近なものとして親しむことができ、一生涯を通じてスポーツを「好き」で「楽しむ」ことができる環境を市の豊富なスポーツ資源を活用し、整え、実現をめざすことを基本理念とします。

スポーツ立国戦略(平成22年8月26日 文部科学省)

人(する人、観る人、支える(育てる)人)の重視

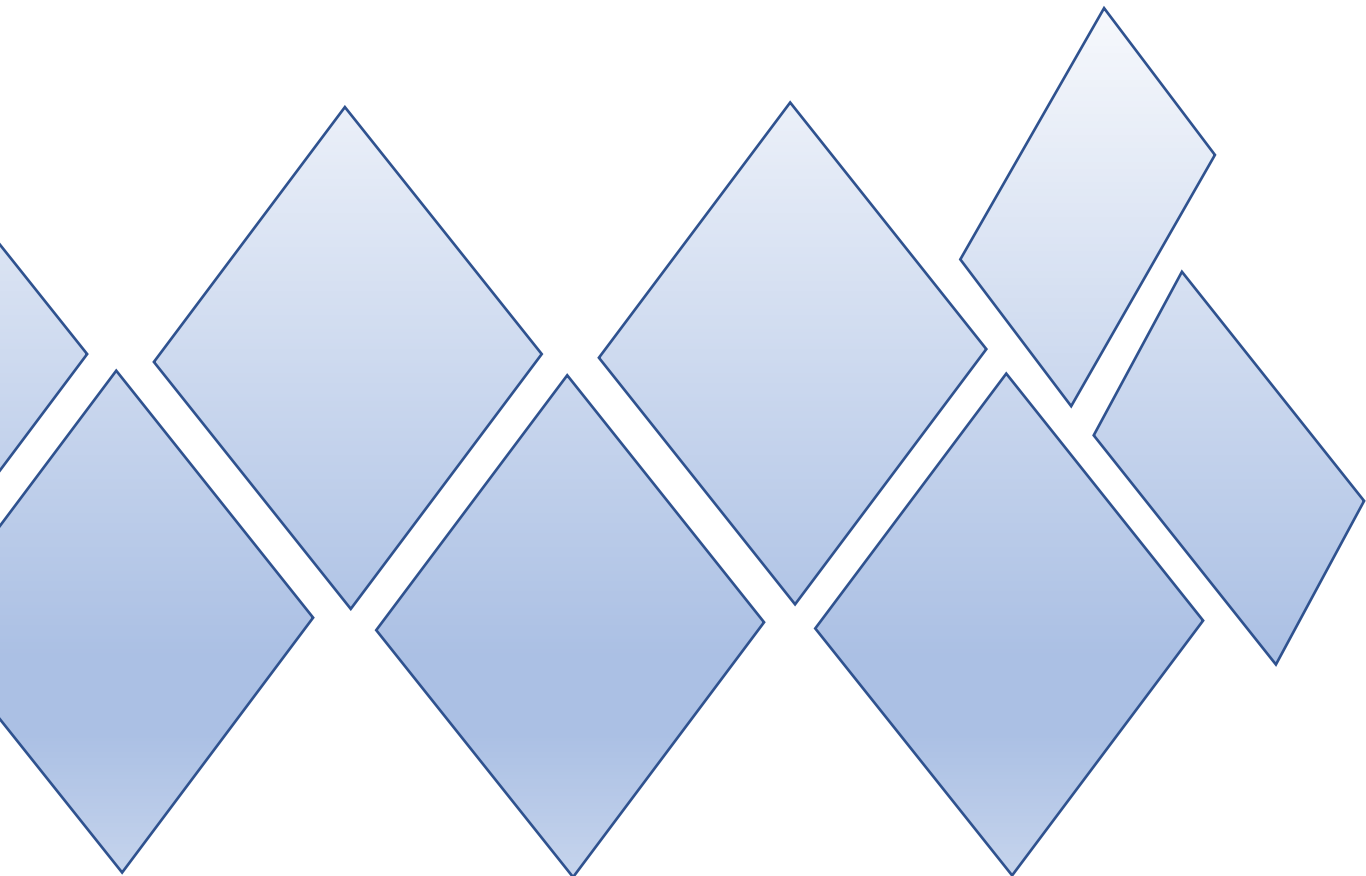
スポーツを実際に「する人」だけではなく、トップレベルの競技大会やプロスポーツの観戦など、スポーツを「観る人」、そして指導者やスポーツボランティアといったスポーツを「支える(育てる)人」に着目し、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境をハード(施設等)、ソフト(プログラム・指導者等)の両面から整備する。

※ウェルビーイング:「肉体的、精神的、社会的すべてにおいて満たされた状態」のことで、個人がより良い状態で幸せと感じているという意味。



第 1 章

東大阪市スポーツ推進計画とは



第1章 東大阪市スポーツ推進計画とは

1. 計画策定の趣旨(目的)

スポーツの推進は、人々が感じる楽しさや喜びに根源を持つ身体活動を推進することであり、心身の健全育成や体力の向上、健康の維持・増進、精神的な充足感の獲得、人格の形成など、市民が幸せで豊かな生活を送るうえで重要な政策です。

国において平成22(2010)年8月に「スポーツ立国戦略」が策定され、平成23(2011)年8月には、「スポーツ基本法」が施行されました。この法律に基づき、平成24(2012)年3月に「スポーツ基本計画」が策定されました。その後、令和4(2022)年3月に、スポーツ庁において、全ての人が自発的にスポーツに取り組むことで自己実現を図り、スポーツの力で輝くことにより、前向きで活力ある社会と、絆の強い社会を作るという方向性が示され、時間をかけて取り組むべきものとして包括的かつ大局的な観点から整理し、示された「第3期スポーツ基本計画」が策定されました。

本市では、スポーツ基本法第10条に基づく「地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画」として、平成31(2019)年3月に当時の社会状況等に合わせ、東大阪市スポーツ推進計画を策定し、本市のスポーツ推進のための施策を展開してきました。

令和5(2023)年度で、計画期間が終了しますが、この間、アジア初となるラグビーワールドカップ2019日本大会(以下「RWC2019日本大会」という。)や2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会(以下「東京2020大会」という。)の開催等により、スポーツが日本全土にもたらしたその価値を、令和9(2027)年に関西においてワールドマスターズゲームズ2027関西(以下「WMG2027関西」という。)を控えている本市においては、より一層向上させる必要があります。これにより、本市ではこれまでのスポーツの盛り上がりを継続させるとともに、さらなるラグビーを中心としたスポーツのまちづくりの推進を計画的かつ効果的に展開するための道標として、「第2次東大阪市スポーツ推進計画」(以下「本計画」という。)を策定します。

2. スポーツの価値と可能性

スポーツに親しむことは、心身の健全育成や体力の向上、健康の維持・増進、楽しみや喜び、爽快感や達成感等の精神的な充足感の獲得につながり、他者を尊重する意識や協調性、自律心や公平さを尊ぶ態度、実践的な思考力や判断力を育むといった人格の形成にも大きな影響を与えます。

また、スポーツに親しむ人が増えることで、健康寿命の延伸と医療・介護費の削減・抑制、多様性を認め合う意識の醸成、地域コミュニティの活性化、市民活力の創出、地域経済の活性化等の効果が期待できます。

このように、スポーツは楽しさや喜びを得られるだけでなく、地域の課題解決に資する役割も期待できます。

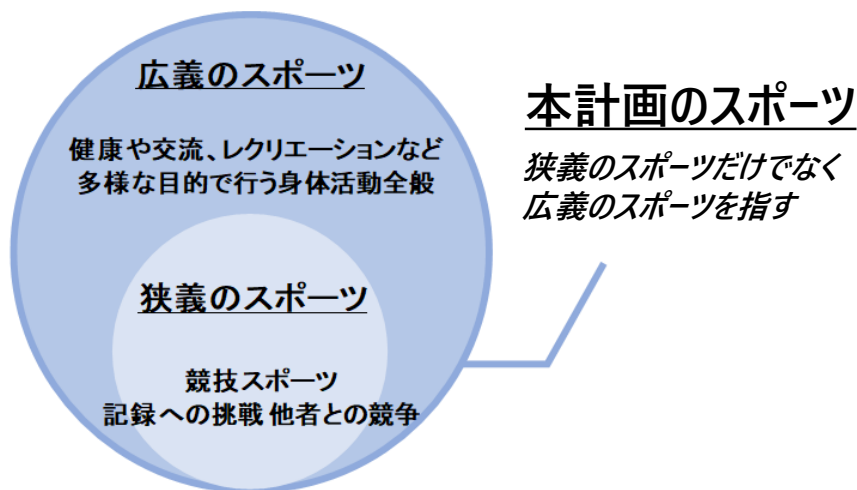
3. 本計画におけるスポーツのとらえ方

スポーツ基本法において、スポーツとは「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養(かんよう)等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動であり、今日、国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠なもの」とされています。また、スポーツの意義や価値が広く国民に共有され、スポーツを「する」「みる」「ささえる」という様々な参画を通じて、より多くの人々がスポーツの楽しさや感動を分かち合い、互いに支え合う「スポーツ文化」の確立をめざしています。

そこで、本計画では、前計画に引き続き、身体を動かす遊びやレクリエーション、散歩やウォーキング、仕事・家事の合間などのちょっとした運動、健康づくり・介護予防のためのトレーニングや体操なども含め、スポーツへの自発的な参画を通して、人が「楽しさ」や「喜び」を感じることが出来るものを“スポーツ”としてとらえていきます。

また、一部の「eスポーツ※」や「マインドスポーツ※」といった大きな身体活動を伴わないスポーツ・運動については、今後国や他市の動向を注視していきます。

本計画で取り扱うスポーツの範囲

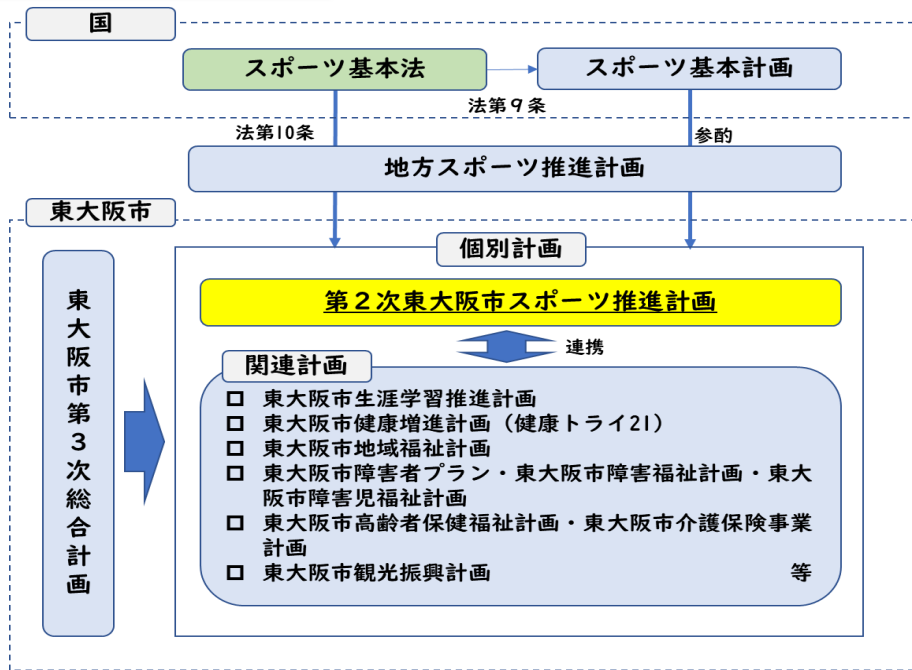


■「スポーツの語源」スポーツ庁Web広報マガジン「DEPORTARE」より

スポーツ史の研究によれば、英語の「Sport」は19~20世紀にかけて世界で一般化した言葉であり、その由来はラテン語の「deportare」(デポルターレ)という単語だとされています。デポルターレとは、「運び去る、運搬する」の意。転じて、精神的な次元の移動・転換、やがて「義務からの気分転換、元気の回復」仕事や家事といった「日々の生活から離れる」気晴らしや遊び、楽しみ、休養といった要素を指します。つまりこれらがスポーツの本質であり、人生を楽しく、健康的で生き生きとしたものにするために、より楽しむために勝利を追求するもよし、自分のペースで楽しむもよし、誰もが自由に身体を動かし、自由に観戦し、楽しめるものであるべきなのです。

※eスポーツ:「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称。
 ※マインドスポーツ:高い思考能力を用いて競われるゲームを一種のスポーツと見なしたもの。(例:囲碁、将棋、チェスなど)

4. 本計画の位置づけ

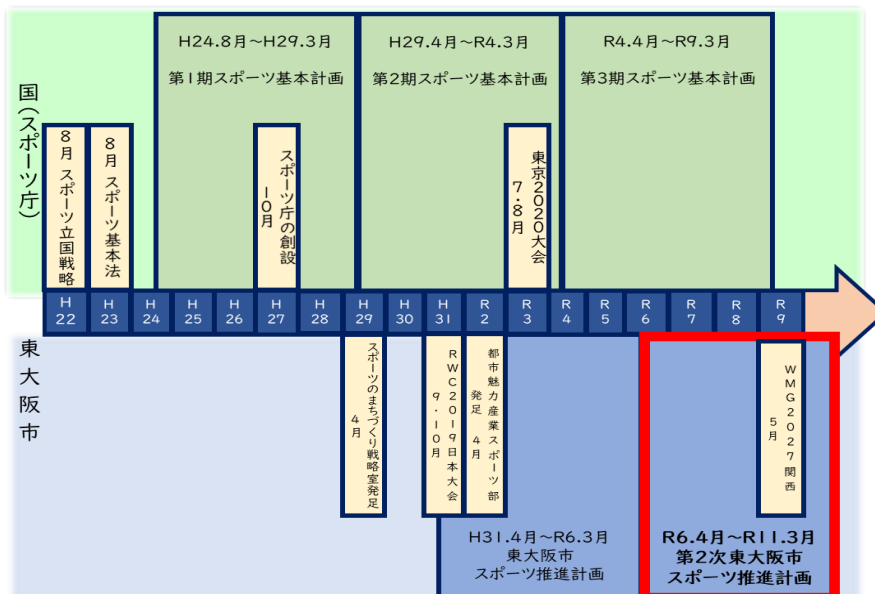


■地方公共団体に期待される役割「第3期スポーツ基本計画」（スポーツ庁）

- ▶ 地方公共団体は、国民に対してスポーツの機会を提供するとともに、スポーツを通じて様々な社会の活性化や課題解決を図る観点から、スポーツ施策の展開にあたり大変重要な役割を果たす。国民やスポーツ団体等のスポーツ活動を支援するため、この計画を参酌してできる限り速やかに地方スポーツ推進計画を改定・策定することが期待される。
- ▶ 各地域が有するスポーツ資源等を踏まえ、課題解決等に「スポーツの力」がどのように寄与できるのかを検討し、各地域の実情に応じた計画を策定することが望ましい。

5. 計画期間

本計画は、国の第3期スポーツ基本計画が5年間の計画であることを踏まえ、10年先を見据えつつ、今後も予想される社会情勢やスポーツ政策動向の変化に的確に対応するため、令和6（2024）年4月1日から令和11（2029）年3月31日までの5カ年計画とします。



6. SDGs (持続可能な開発目標) との関係

平成27(2015)年9月の国連サミットにおいて、持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)を含む「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。SDGsとは、世界共通の目標として健康や教育、経済成長、気候変動など多岐にわたる17の持続可能な開発目標と169のターゲットが設定されており、いずれも令和12(2030)年までの達成をめざすものです。すべての関係者(先進国、途上国、民間企業、NGO、有識者等)の役割を重視し、「誰一人取り残さない」社会の実現をめざし、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むものとされています。

また、平成28(2016)年12月に国の持続可能な開発目標(SDGs)推進本部が決定した「持続可能な開発目標(SDGs)実施指針」では、自治体の各種計画や戦略、方針の策定や改訂にあたってはSDGsの要素を最大限反映することを奨励しており、SDGsは国際社会全体の普遍的な目標であり、地域の持続的な発展にとって重要な目標です。

本市ではSDGsの効果的な普及・啓発方法や、SDGsの考え方を活用した市の課題解決方法等を研究するため、「#サステな東大阪」という企画をスタートさせ、持続的かつ加速度的にSDGsの目標達成に向けた課題解決を図り、東大阪市の未来創造につなげていくこととしています。本計画においても、SDGsの理念を踏まえながら、スポーツを推進していきます。



コラム①:『eスポーツ』

eスポーツとは、「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称です。

■国際的な動向

平成30(2018)年時点では、IOCや国際競技団体による「オリンピック・サミット」の声明において、eスポーツについてオリンピック種目とすることは時期尚早であり、スポーツという言葉を使うことについて更なる対話と研究が必要と表明されました。一方で同年、「アジア版オリンピック」とも言われるアジア競技大会(第18回大会)ではeスポーツがデモンストレーション競技として実施され、翌第19回大会では正式種目として採用され、7種目が設定されました。

■国内での動向

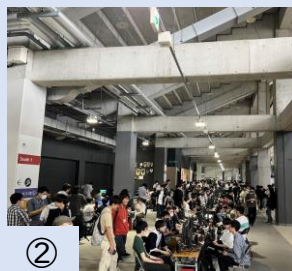
国民体育大会では、愛媛大会(平成29(2017)年)、福井大会(平成30(2018)年)の文化プログラムとしてeスポーツ大会が実施されました。また、茨城大会(令和元(2019)年)以降の文化プログラムでは、都道府県対抗の形式での実施がされています。

政府としても平成30(2018)年の段階から「未来投資戦略2018」において、「新たな成長領域として注目されるeスポーツについて、健全な発展のための適切な環境整備に取り組む。」と記載しており、内閣府の知的財産戦略推進事務局が毎年まとめている知的財産推進計画2019においても、「コンテンツ分野における新たな成長領域として注目されているeスポーツについて、関係省庁において、制度的課題の解消など健全な発展のため適切な環境整備に必要な応じて取り組むとともに、産学官やコミュニティが連携した取組を通じコンテンツだけでなく周辺関連産業への市場の裾野の拡大や、社会的意義・波及効果について検討を行うことが必要である。」と国の姿勢も明確になっています。

■東大阪市における動向

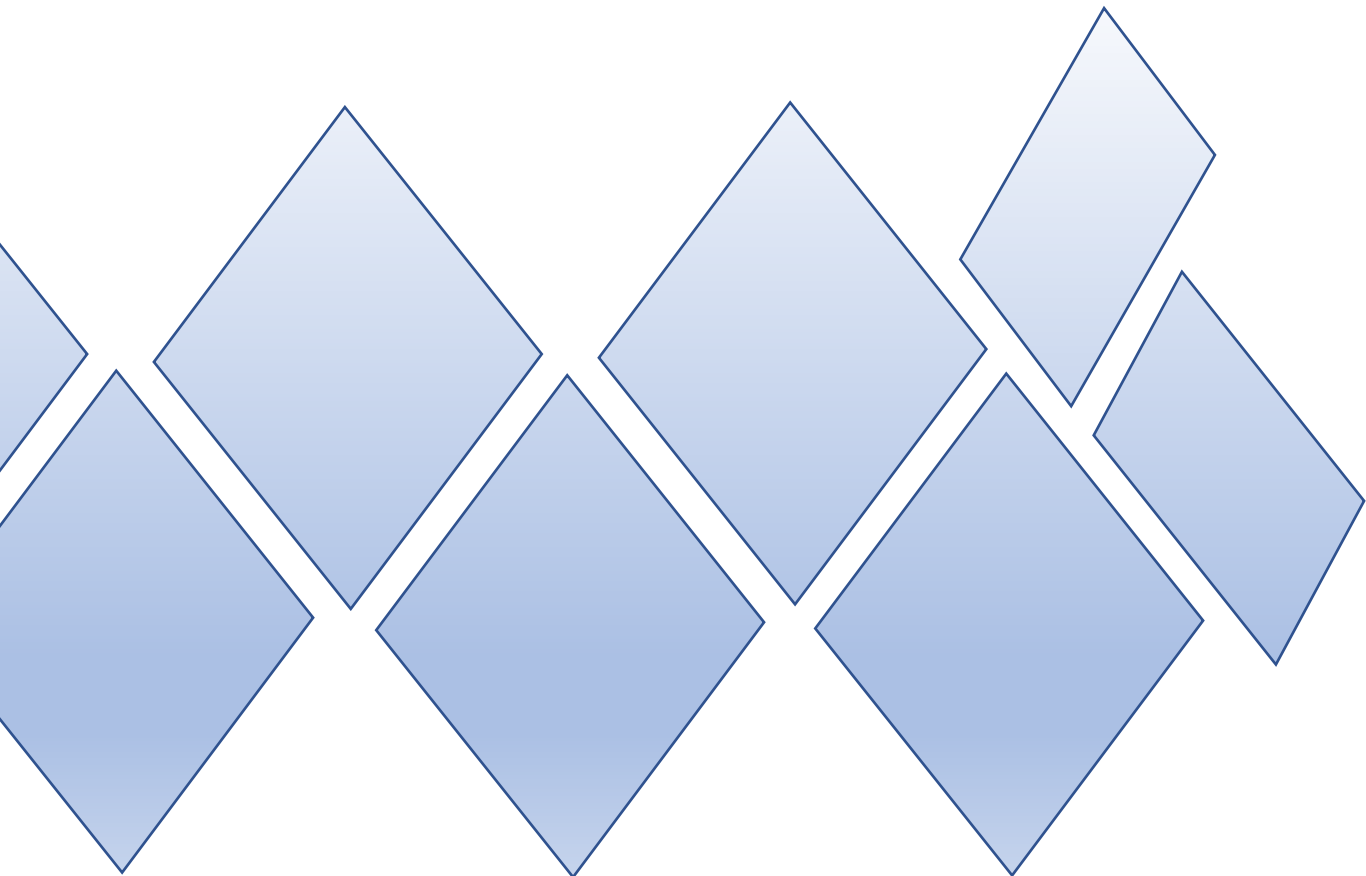
大きな身体活動を伴わないeスポーツについては、6ページで言及しましたが、一部のeスポーツにおいてはスポーツに取り組むきっかけとなり、スポーツ推進の一助となるものも存在すると考えられます。なお、本市のeスポーツにかかる取組は以下の通りです。

- ① eスポーツを通じて、高齢者の介護予防や認知症対策などの健康維持、地域交流の促進を図ることを目的として、市内老人センターに家庭用ゲーム機器などeスポーツを気軽に楽しめる場を設置。
- ② 花園ラグビー場の施設稼働率の増加をめざす中で、グラウンドを使用しないスタジアムの新たな有効活用策として「eスポーツイベント」の開催。
- ③ ひきこもり相談におけるeスポーツを通じたコミュニケーション支援に取り組むことなどを目的に、全日本青少年eスポーツ協会/Gameicと連携協定を締結。



第2章

スポーツ推進に関する状況



第2章 スポーツ推進に関する状況

1. 国におけるスポーツの推進

(1) スポーツ立国戦略の策定

平成 22 (2010) 年 8 月策定の「スポーツ立国戦略」では、めざす姿を「新たなスポーツ文化の確立～すべての人々にスポーツを!スポーツの楽しみ・感動を分かち、支え合う社会へ～」とし、「ライフステージに応じたスポーツ機会の創造」、「世界で競い合うトップアスリートの育成・強化」、「スポーツ界の連携・協働による『好循環』の創出」、「スポーツ界における透明性や公平・公正性の向上」、「社会全体でスポーツを支える基盤の整備」の 5 つの重点戦略が立てられました。

(2) スポーツ基本法の制定

「スポーツ立国戦略」の趣旨を踏まえ、平成 23 (2011) 年 8 月に「スポーツ基本法」が施行されました。同法では、「スポーツに関する施策の基本となる事項を定めることにより、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって国民の心身の健全な発達、明るく豊かな国民生活の形成、活力ある社会の実現及び国際社会の調和ある発展に寄与すること」を目的としています。

(3) 第1期スポーツ基本計画の策定

スポーツ基本法第 9 条の規定に基づき、同法の理念を具体化し、国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となってスポーツ立国の実現をめざすための重要な指針として、平成 24 (2012) 年 3 月に「第 1 期スポーツ基本計画」が策定されました。

(4) スポーツ庁の創設

「スポーツ基本法」の趣旨を踏まえ、スポーツを通じ「国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活」を営むことができる「スポーツ立国」の実現を最大の使命とし、東京2020大会から、国民の健康増進に関する取組に至るまで、すべてのスポーツに関する施策を総合的に推進するための組織として、平成 27 (2015) 年 10 月にスポーツ庁が発足しました。

(5) 第2期スポーツ基本計画の策定

「第1期スポーツ基本計画」の期間満了に伴い、平成 29 (2017) 年 3 月に「第2期スポーツ基本計画」が策定されました。

同計画では、国民が「『する』、『みる』、『ささえる』といった様々な形で積極的にスポーツに参画し、スポーツを楽しみ、喜びを得ることで、それぞれの人生を生き生きとしたものとするを期待」し、スポーツで「人生が変わる」、「社会を変える」、「世界とつながる」、「未来を創る」の4つの指針を立て、すべての国民に「スポーツの価値」を発信しています。

(6) 大規模国際大会の開催(ゴールドenspportsイヤーズ)

(ア) ラグビーワールドカップ2019日本大会

令和元(2019)年9月から11月にかけて「RWC2019日本大会」が開催されました。第9回目となる本大会は、アジア初のラグビーワールドカップとして、全国12会場で熱戦が繰り広げられました。

(イ) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会

平成25(2013)年9月、国際オリンピック委員会(IOC)総会において、夏季オリンピック・パラリンピックの開催都市が東京に決まりました。

しかしながら、令和2(2020)年に入り、世界的な規模で、新型コロナウイルス感染症の拡大が急速に進み、1年の延期がなされた中、令和3(2021)年夏、原則無観客での実施となりましたが、東京2020大会が開催されました。

世界中から集まったトップアスリートによる数々の熱戦が繰り広げられ、国内外の多くの人々にその様子が届けられました。

(ウ) ワールドマスターズゲームズ2021 関西

概ね30歳以上であれば、すべての人が参加できる生涯スポーツの国際総合競技大会であり、35競技59種目が関西一円で開催されます。しかしながら、東京2020大会同様、令和3(2021)年5月に開催予定であったワールドマスターズゲームズ2021関西が1年延期となりました。

延期が発表されたのち、令和4(2022)年7月には令和9(2027)年5月に開催が決定となりました。

(7) 第3期スポーツ基本計画の策定

「第2期スポーツ基本計画」の期間満了に伴い、令和4(2022)年3月に「第3期スポーツ基本計画」が策定されました。同計画ではスポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを真に実現できる社会をめざすため、次の3つの視点が必要になるとされています。

(ア) 社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に対応するというスポーツを『つくる／はぐくむ』という視点

(イ) 様々な立場・背景・特性を有した人・組織が「あつまり」、「ともに」活動し、「つながり」を感じながらスポーツに取り組める社会の実現をめざすという視点

(ウ) 性別、年齢、障害の有無、経済的事情、地域事情等にかかわらず、全ての人々がスポーツにアクセスできるような社会の実現・機運の醸成をめざすという視点



東大阪市で講演する
鈴木大地スポーツ庁初代長官

2. 東大阪市におけるスポーツの推進

(1) 近年のスポーツ推進のあゆみ

① 近年以前のスポーツ推進

スポーツ施策やスポーツ担当は、主に教育委員会において所管され、日本特有の体育の文化とともに、歩みを進めてきました。

時代が進むにつれ、コミュニティスポーツや社会体育といったコミュニケーションとしてのスポーツから、個人が行う・見ることによって楽しむ産業としてのスポーツが形成されていきました。こういった潮流から本市においてもスポーツのあり方が考えられるようになりました。

② 平成3(1991)年「ラグビーのまち」を表明

ラグビーが持つ「たくましさ・力強さ」「連帯性・団結力」「友情・すがすがしさ」をまちづくりの理念として活かすべく、「ラグビーのまち」を標榜しました。また、平成4(1992)年には市公式マスコットキャラクターの「トライくん」が誕生しました。

③ 平成22(2010)年4月 ラグビーワールドカップ誘致室 発足

RWC2019日本大会開催決定にあたり、東大阪市花園ラグビー場での開催誘致を目的として「ラグビーワールドカップ誘致室」が組織機構改正により発足しました。

誘致にかかる署名活動や誘致に向けた機運醸成のため、市民公募によるラグシャツの作成、ラグビーワールドカップ誘致ロゴやオリジナルナンバープレートの作成などを行いました。

平成26(2014)年10月には開催希望申請書を公益財団法人ラグビーワールドカップ2019組織委員会に提出し、東大阪市が正式に立候補しました。

④ 平成27(2015)年3月 RWC2019日本大会花園開催決定

誘致活動が実を結び、花園での開催が決定されました。RWC2019日本大会の花園開催が決定したことをうけ、組織名を「ラグビーワールドカップ誘致室」から「花園ラグビーワールドカップ2019推進室」に変更しました。

⑤ 平成29(2017)年4月 スポーツのまちづくり戦略室 発足

ゴールデンスポーツイヤーズ(RWC2019日本大会、東京2020大会、ワールドマスターズゲームズ2021関西)を間近に控え、スポーツが持つ可能性を広くとらえ、またスポーツを通じたまちづくりを進めるため、スポーツのまちづくり戦略室が組織機構改正により発足しました。

⑥ 平成31(2019)年3月 東大阪市スポーツ推進計画 策定

本市において、スポーツのまちづくりを計画的かつ効果的に展開するための道標としてスポーツを取り巻く現状と課題を明らかにするとともに、庁内各部局との連携を図ることで多岐にわたる行政分野におけるスポーツの活用を進める基礎となる施策体系を示すために策定しました。

⑦ 令和元(2019)年9月 RWC2019日本大会開催

アジア初のラグビーワールドカップが日本で開催されました。開催都市は全国12か所、花園ラグビー場でも4試合が行われ会場は大いに盛り上がりました。

⑧令和2(2020)年4月 都市魅力産業スポーツ部、スポーツのまち推進室、スポーツビジネス戦略課、市民スポーツ支援課、花園ラグビー場活性化推進課 発足

スポーツ事業が教育委員会から市長部局に移管され、産業としてのスポーツを推進する「スポーツビジネス戦略課」が発足しました。

⑨令和2(2020)年12月 花園ラグビーの日、花園ラグビー週間制定

花園ラグビー場が、RWC2019日本大会が行われた世界に誇るスタジアムであることを市民の心に深く刻み、ラグビーのまち東大阪を対外的にアピールしていくことを目的として、花園ラグビー場でRWC2019日本大会の初戦が開催された日を記念し、毎年9月22日を「花園ラグビーの日」として、花園ラグビー場でRWC2019日本大会の4試合が開催された9月22日から10月13日を「花園ラグビー週間」として制定しました。

⑩令和2(2020)年12月 東大阪立ウィルチェアスポーツコート誕生

障害の有無や年齢、性別にかかわらず誰もが共にウィルチェアスポーツをはじめとするスポーツ及びレクリエーションを楽しむ機会を創出するとともに、ウィルチェアスポーツの振興及び普及を図るため、国内初となる屋外型ウィルチェアスポーツ施設として、花園ラグビー場敷地内に整備しました。

⑪令和4(2022)年7月 釜石市とラグビーフットボールを通じた施策交流に関する連携協定

ラグビーフットボールを通じた施策交流により、ラグビーフットボールの競技の振興や、両市における賑わいの創出、相互交流の活性化を図ることを目的に釜石市と連携協定を締結しました。

⑫令和9(2027)年5月 WMG2027関西 開催予定

概ね30歳以上であれば誰でも参加できる生涯スポーツの国際総合競技大会です。WMG2027関西のラグビーフットボール競技を花園ラグビー場にて開催します。世界各国から多くの選手が参加し、国内30,000人、海外20,000人を参加目標としています。



花園ラグビーの日記念制定式



RWC2019日本大会
花園開催決定の瞬間

(2) 花園ラグビー場に関する主な歴史

① 花園ラグビー場の建設（昭和初期）

昭和3（1928）年10月、秩父宮様が檀原神宮にご参拝のため大阪電気軌道株式会社（現在の近畿日本鉄道株式会社）の電車に乗車された際、この土地にラグビーの専用競技場を作ったらどうかというお言葉があり、大阪電気軌道の役員会でラグビー場の建設が決議されました。

昭和4（1929）年11月22日、当時の大阪府中河内郡英田村大字吉田花園に花園ラグビー運動場を竣工し、日本最初のラグビー専用グラウンドとして開場しました。当時、ラグビー場の建設は国内に例を見なかったことからイギリスのトゥイッケナムラグビー場を範として、周囲各10ヤード（9メートル）の余地を設け、縦横100分の1の勾配をつかって水はけをよくし、全面に高麗芝を植えました。

オープニングゲームには、「全日本選抜OB vs 全日本選抜学生」の記念試合が組まれ開場を祝いました。また昭和7（1932）年には花園ラグビー場初となる国際試合をカナダチームと行い多くの方が観戦に訪れました。

② 戦争と花園ラグビー場（昭和初期）

昭和18（1943）年以降、第2次世界大戦が激化し、軍用に使用するための鉄が不足。花園ラグビー場もその影響を受け、昭和16（1941）年8月に公布された金属類回収令に沿って、大鉄傘（メインスタンドの屋根）が撤去、供出されました。また戦時中はパイロットの初等訓練施設や食糧増産のため農場として使われました。

その後、戦争は終結し、一度はアメリカに接収されましたが、昭和24（1949）年に解除となり、花園ラグビー場内にゴルフショット場（打ちっ放し場）の営業を始めるなど、年々施設を増やしていきました。

③ 聖地への第一歩（昭和中期）

昭和38（1963）年、今では東大阪の冬の風物詩となっている全国高等学校ラグビーフットボール大会（以下「高校ラグビー大会」という。）が花園ラグビー場で初めて開催されました（第42回大会）。これ以降、高校ラグビー大会が花園ラグビー場で開催されるようになり、飛球の旗をめざし数々のドラマが今日まで多く生まれました。



戦後の花園ラグビー場



花園ラグビー場で
高校ラグビー大会初開催

④大規模改修（昭和中期～平成初期）

昭和55（1980）年に「花園ラグビー場」から「近鉄花園ラグビー場」に名称が変更されました。平成3（1991）年から大幅な施設整備工事施行に伴い、スコアボード更新、ゴルフショット場（打ちっ放し場）の営業を中止。平成4（1992）年には戦前あったメインスタンドの大鉄傘が設置され、練習グラウンド新設、第2グラウンド洋芝化、ラグビー史料室も開設されました。

⑤RWC2019日本大会へのあゆみ（平成後期）

平成27（2015）年、花園ラグビー場がRWC2019日本大会の試合会場に選ばれました。同年、近畿日本鉄道株式会社から東大阪市が土地を購入し、建物は無償譲渡されたことに伴い、名称が4月より「近鉄花園ラグビー場」から「東大阪市花園ラグビー場」に変更となりました。

さらにワールドカップ開催基準を満たすため、大幅な改修が必要となることから平成29（2017）年2月から平成30（2018）年9月にかけて工事を行い、大型映像装置や個別席が設置されたほか、ナイター照明が設置されました。

同年10月26日には、改修工事が終了した花園ラグビー場のオープニングマッチとなる「日本代表 対 世界選抜」が行われ、1万人を超えるラグビーファンが熱狂しました。

⑥RWC2019日本大会開幕

令和元（2019）年9月、RWC2019日本大会がついに開幕し、花園ラグビー場でも4試合が行われました。毎試合2万人を超える来場者が世界レベルの攻防に大熱狂しました。トライが決まるたび、どよめきと歓声が交錯していました。

本大会は「最も偉大なワールドカップとして記憶に残る。日本は開催国として最高だった」と大会主催者のワールドラグビー会長ビル・ボーマント氏から最大級の賛辞が送られたように大成功を収めました。

これ以降も国際試合やジャパンラグビーリーグワン、高校ラグビー大会が行われるなど、今日まで“聖地”の名にふさわしいスタジアムであり続けています。



改修中の花園ラグビー場



改修後の花園ラグビー場



花園ラグビーミュージアム



花園ラグビー場 VIPルーム

3. 東大阪市が誇るスポーツ資源

(1) 大規模スポーツ施設

①東大阪市花園ラグビー場

103回の歴史をもつ高校ラグビー大会の会場であり、聖地“花園”と呼ばれ多くのラグビーファンから親しまれています。花園ラグビー場を象徴する施設南側のスクラムスクリーンは3本の菱格子から構成されており、「団結」「熱狂」「感動」を表現しています。また、場内には生駒山をバックにゲームを観戦できるVIPルーム、様々な歴史を紡ぐ花園ラグビーミュージアムなど、最新の設備を有し、“聖地”の名にふさわしいスタジアムがそこにはあります。また、スポーツイベントだけではなく、花園ラグビー場のブランドを活用した取組として、「スタジアムウェディング」や「二十歳の記念式典(成人祭)」なども行っています。花園ラグビー場は人生の様々な1ページにも寄り添い、彩りを添えています。また、周辺においても、近鉄奈良線の東花園駅から花園ラグビー場へ至る通り、愛称「スクラムロード花園」の沿道には、スポーツ用品を扱う店や飲食店など数々の店舗が並び、試合の開催日は大いに賑わいます。

memo:

- 観客27,345人収容
- 災害時は自衛隊の活動拠点や被災状況に応じて物資配送センターとして活用される



②東大阪市立総合体育館(東大阪アリーナ)

各種競技や運動会など、様々な用途で使用できる屋内体育施設です。観覧席は1400席を備え、大規模な催しから、地域のイベントまで開催出来ます。メインとなる大アリーナ、大規模大会の補助機能施設となる小アリーナ、剣道・柔道を中心に利用できる競技フロアの武道場、年間を通して利用可能な公益財団法人日本水泳連盟公認の50m屋内プール、トレーニングルームなど様々なスポーツシーンに応じての利用が可能です。卓球、バレー、バスケットボールなどのサークル活動や大会、スポーツ教室が行われており、子どもから高齢者まで幅広い世代の市民が、安全で快適にスポーツに取り組むことができる施設です。

memo:

- 災害時は物資配送センターや被災状況に応じて災害対策本部が設置される
- 駐車場102台



③花園中央公園多目的球技広場(トライスタジアム)

高校ラグビー大会時は第3グラウンドとして使用される、ラグビー、サッカー、陸上競技が可能な陸上競技場です。トライスタジアムの陸上競技場は平成16(2004)年10月に完成し、平成19(2007)年3月に日本陸上競技連盟の認定を受け、第3種公認陸上競技場になりました。以来、東大阪市民陸上競技大会やバリアフリーマラソンを開催する等、中高生を中心に多くの方々に親しまれてきました。また、平成28(2016)年12月には大阪府下の公認競技場としては初めてブルートラックが導入されました。青色のトラックは一般的な赤色(レンガ色)のトラックに比べて、視点のブレが少なく集中力が高まりやすいと言われており、近年、オリンピックや世界陸上でも採用が増えています。

memo:観客2,880人収容



④花園中央公園野球場（花園セントラルスタジアム）

平成18（2006）年竣工の本格的野球場です。電光掲示板や内野観覧席を備え、軟式野球、ソフトボール、硬式野球が可能です。大阪ゼロロクブルズが本拠地としている他、平成25（2013）年から毎年、日本野球機構（NPB）のオリックス・バファローズがウエスタンリーグ公式戦を開催しています。開催日には多くのプロ野球ファンが訪れ、花園ラグビー場とともに花園中央公園一帯がスポーツで賑わいます。

memo:観客1,600人収容



⑤東大阪市立東体育館

各種競技や運動会など、様々な用途で使用出来る屋内体育施設です。平成28（2016）年に耐震補強及びリニューアル工事を行い、利用しやすくなりました。研修室3室、会議室3室、和室などがあり、スポーツとしての利用以外にもカルチャースクールなど様々な用途で利用されています。

memo:

- 観覧席319席（体育館棟）
- 駐車場18台



(2) 特色のあるスポーツ施設

東大阪市立ウィルチェアスポーツコート

日本で初めての屋外型ウィルチェアスポーツ施設です。障害の有無や年齢、性別にかかわらず誰もが共にウィルチェアスポーツをはじめとするスポーツ及びレクリエーションを楽しむ機会を創出するとともに、ウィルチェアスポーツの振興及び普及を図るため、令和2（2020）年12月に完成しました。

車いすラグビー、車いすテニス、車いすバスケットボール、ボッチャなどのパラリンピック種目をはじめ、車椅子ソフトボール、車椅子ハンドボールなどの様々なウィルチェアスポーツがプレー可能です。また、施設を利用される際は、ボッチャセットなどの競技備品をはじめ、スポーツ用車いす26台の貸し出しが可能です。（一部有料）

また、様々な障害を持つ車いすユーザーを考慮し、バリアフリー対応のトイレや体温調節が難しい方に対応する冷暖房完備の救護棟、ミスト扇風機も設置しています。

■ウィルチェアスポーツとは

インクルーシブな概念を取入れたスポーツとして車いすスポーツを推進するにあたり、車いすの英語表現“wheelchair”を用いてウィルチェアスポーツと呼称したもので、パラリンピック種目の車いすラグビーをはじめ、車いすテニス、車いすバスケットボールなど、車いすを使用したスポーツのことです。



(3) 主なスポーツイベント

① 全国高等学校ラグビーフットボール大会

大正6(1917)年に行われた第1回大会は大阪の豊中グラウンドで行われました。その後、阪神甲子園球場や西宮球技場で行われましたが、昭和38(1962)年の第42回大会に初めて花園ラグビー場で開催されました。これ以降、現在まで花園で開催されるようになりました。

現在では、本大会へ出場することについて、関係者の間では「花園に行く」と表現されることが多く、ラグビー関係者の間では「花園」だけで通じるほど、全国に聖地“花園”は浸透しています。また、12月下旬から1月上旬に開催されることから冬の風物詩となっています。今でも聖地“花園”のピッチに立つことは高校生ラガーの憧れであり、これからも目標となる大会であり続けます。

② マスターズ花園

「さあ、もう一度花園へ」の大会のキャッチコピーでも分かるように、高校時代にラグビーに明け暮れた高校ラグビーOBが聖地“花園”で熱い戦いを繰り広げるマスターズ世代(40歳以上)のための大会です。

花園ラグビー場を活用した販わいの創出に加え、マスターズ世代のラグビー活性化を通じた高校ラグビー大会の支援を目的にし、ラグビー競技の裾野拡大を図るために開催します。更には令和元(2019)年に開催されたRWC2019日本大会の開催地であり、そのレガシーを生かしつつ、WMG2027関西開催に向けた機運醸成を目的として開催しています。

令和4(2022)年に開催した第1回大会は総勢18チーム805名、翌年の第2回大会は総勢18チーム855名の選手が参加しました。第2回大会は95歳の最高齢参加選手をマスターオブマスターズとして表彰しました。

今後はマスターズ花園を継続実施する中で、より多くのOBチーム、選手に大会情報を届けるとともに、参加しやすい募集環境を整え、ひいては参加チームの拡大、地方への参加機運の波及に努め、WMG2027関西の潜在参加者の抽出と選手の安全を保ちつつ、満足度を向上させるための大会規則や競技ルールづくりを図り、WMG2027関西へのノウハウの醸成を行います。

③ ワールドマスターズゲームズ2027関西

スポーツ・フォー・ライフ(人生を豊かにするスポーツ)の理念を元に創設され、概ね30歳以上であれば、国籍・年齢・性別に関わらず参加でき、障害の有無を超えて同じ日程・同じフィールドで競い、交流できる生涯スポーツの国際総合競技大会です。

第1回大会が昭和60(1985)年にカナダのトロントで行われており、これ以降、4年に一度開催されています。

当初、令和3年(2021)年に日本・関西一円で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により延期となり、令和9(2027)年に開催となりました。

世界各国から多くの選手が参加し、公式競技 35競技59種目が行われる予定であり、国内30,000人・海外20,000人を参加目標としています。種目ごとに関西各地で開催され、花園ラグビー場ではラグビーフットボール競技を行います。

日本大会のテーマコンセプトはスポーツ・フォー・ライフの開花です。WMG2027関西を目標にスポーツを再び始めるきっかけとなることで、生涯スポーツ社会の推進に取り組みます。

④東大阪市民体育大会

東大阪市民体育連盟が市民の誰もが参加できる競技大会を開催しています。東大阪市民体育連盟は19の競技団体からなり、卓球・バドミントン・ソフトテニス・バレーボール・空手道・柔道・水泳・少林寺拳法・リズム体操・相撲・サッカー・陸上競技・バスケットボール・軟式野球・ソフトボール・剣道・テニス・なぎなた・ラグビーの大会を開催しています。

⑤市民スポーツの祭典

スポーツの日に因んで大会を実施し、未経験者、老若男女問わず市民が気軽に参加できる機会を作るために陸上競技やバドミントン、ソフトテニス、ボッチャなど様々なスポーツ大会を行っています。

各種スポーツを無料で体験することができるため(一部有料)参加がしやすく、健康の維持、増進の促進に寄与しています。これからも全市民を対象とした「スポーツの日」のスポーツ祭典の名にふさわしい事業を続けていきます。



全国高等学校
ラグビーフットボール大会



マスターズ花園



東大阪市民体育大会



市民スポーツの祭典



(4) トップスポーツチーム・市内スポーツ団体

①花園近鉄ライナーズ

昭和4(1929)年に創部した日本有数の歴史と実績を持ち、花園ラグビー場をホームスタジアムとして活動するラグビーチームです。数々のタイトルを獲得し、幾重にも歴史を重ね、2022シーズンよりラグビー新リーグ「JAPAN RUGBY LEAGUE ONE(ジャパンラグビーリーグワン)」に参戦しており、同シーズンにディビジョン2優勝を果たし、2022-23シーズンよりディビジョン1で戦っています。

平成28(2016)年8月に「ラグビーのまち東大阪アドバイザー」に就任いただき、ラグビー・スポーツを通じ、全国・全世界の人が訪れたいくなるまちづくりにご尽力いただいています。具体的な取組としては、市内水田で花園近鉄ライナーズの選手と地元小学生と一緒に田植えから収穫、調理実習まで、お米作りを通じ食育の大切さを教える取組や、選手やスタッフが小学生の登校を見守る愛ガード運動など地域に根付いた活動を行っています。

②FC大阪

平成30(2018)年から花園ラグビー場をホームスタジアムとして活動しており、2022-23シーズンより大阪から3クラブ目となるJリーグ入りを果たした東大阪市で初のJリーグクラブです。平成31(2019)年1月にスポーツを通じたまちづくりに関する連携協定を締結し、行政課題の解決や様々な地域貢献活動を行っています。市内小学校を中心に選手・スタッフによるサッカー教室、出前授業を定期的に行っているいただいています。

また、「夢授業」という講話も行っており、子どもたちに夢をもつことの大切さを伝えています。近年のファーストユニフォームには花園ラグビー場の象徴「スクラムスクリーン」や「モノづくりのまち東大阪」をイメージした「歯車」がデザインされています。

③大阪ゼロロクブルズ

平成23(2011)年に東大阪で発足した花園セントラルスタジアムをホームスタジアムとして関西独立リーグに所属しているプロ野球チームです。2012年シーズンより当時の関西独立リーグに参入し、初年度からリーグ3連覇を果たしました。

令和5(2023)年3月にはスポーツを通じたまちづくりに関する事業連携協定を締結。小学校低学年向けのスポーツイベント「してみる」に講師として参加していただくなど、体験イベントや地域のイベントに参加するなどスポーツを通じてまちのにぎわいづくりに協力いただいています。

選手の多くはNPB(日本プロ野球)球団への入団を目標としており、球団として夢に向かってチャレンジする舞台を提供しています。

■ジョイントハンズ花園

ラグビーの花園近鉄ライナーズ・サッカーのFC大阪・野球の大阪ゼロロクブルズのプロスポーツチーム3団体が本市を拠点として活動を行っています。

このプロスポーツチーム3団体が、令和3(2021)年11月に市民の健康増進とスポーツを通じた地域活性化を図ることを目的に「ジョイントハンズ花園」を結成しました。

市の事業にも数多くご協力いただいております、ともに花園を盛り上げようと様々な取組に参画しています。

④その他本市ゆかりのスポーツ団体

平成25(2013)年から日本野球機構(NPB)の『オリックス・バファローズ』がウエスタンリーグ公式戦を花園セントラルスタジアムにて毎年開催しています。同日に開催している子ども向けスポーツイベントの講師や試合後に野球教室を開催しています。同様に卓球T.LEAGUEに所属する『日本ペイントマレッツ』が東大阪アリーナで令和3年度1試合、5年度2試合、公式戦を開催しています。

本市を拠点に活動するスポーツ団体には他にも、V.LEAGUE(一般社団法人ジャパンバレーボールリーグ)のDIVISION3 MENに所属する『近畿クラブスフィード』全日本地域リーグチャンピオンシップ大会ベスト8になった実績のある『タツタ電線株式会社バスケットボール部』、2022全日本実業団選手権で優勝した実業団卓球チームの『クローバー歯科カスピッズ』などがあります。

本市の特色でもある東大阪市立ウィルチェアスポーツコート(以下「ウィルチェアスポーツコート」という。)でも地元車椅子ソフトボールチームや車椅子ハンドボールチームが活動しています。

学生におけるスポーツ活動も盛んであり、オリンピックを多数輩出している近畿大学体育会洋弓部や近畿大学水上競技部、多くのプロ野球選手を輩出されている大阪商業大学野球部や近畿大学野球部、また全日本中学校・高等学校ダンスコンクールに入賞されたことがある樟蔭高等学校ダンス部などがあります。

⑤車椅子ソフトボール日本代表

令和2(2020)年11月に車椅子ソフトボールの普及及び振興を図り、障害の有無、性別、国籍、年齢などの枠を超えて共生社会の実現に寄与することを目的に一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会とパートナーシップ協定を締結しました。

車椅子ソフトボール日本代表は毎年、ウィルチェアスポーツコートにおいて、代表合宿を行い、日本代表選考会なども開催しています。

令和5(2023)年8月にアメリカ・シカゴで開催されたワールドシリーズでは、東大阪市市章もあしらわれたユニフォームで大会2連覇を達成しました。

代表合宿の際は、市民向けのウィルチェアスポーツ体験会の講師も担っていただいています。



花園近鉄ライナーズと
市内小学生とのお米作り



ジョイントハンズ花園の
子ども向け体験会

⑥東大阪市スポーツ推進委員協議会

当協議会はスポーツ推進委員で構成されています。スポーツ推進委員は、スポーツ基本法第32条に基づき、市町村におけるスポーツ推進のため、事業の実施に係る連絡調整並びに住民に対するスポーツ実技の指導その他スポーツに関する指導及び助言を行います。本市では各校区から推薦いただき、122名（令和5（2023）年度現在）の委員に活動いただいています。各校区で行事を行っていただいたり、市民チャレンジ登山大会やスポーツの祭典を開催いただいております。

⑦東大阪市体育連盟

市民がスポーツの大会に参加できるように市民大会や選手権大会を開催する団体です。当連盟は19の競技団体（卓球・バドミントン・ソフトテニス・バレーボール・空手道・柔道・水泳・少林寺拳法・リズム体操・相撲・サッカー・陸上競技・バスケットボール・軟式野球・ソフトボール・剣道・テニス・なぎなた・ラグビー）からなり、年間を通して各競技の市民大会を開催いただいています。

⑧東大阪市スポーツ少年団

東大阪市スポーツ少年団は、スポーツを通して青少年のこころとからだを育てることを目的に、現在東大阪市内で登録11団の団員（315人）、指導者及びスタッフ（40人）（令和5（2023）年現在）により、学習活動・野外活動・レクリエーション活動・社会活動・文化活動を行っています。

生駒山パトロールや種目別大会、スポーツ教室等の事業を実施しています。また、東大阪市・八尾市・柏原市の3市からなる中河内地区スポーツ少年団や大阪府のスポーツ少年団等を通じて指導者対象の交流会等を実施し、青少年育成のための意見交換や研修会などの機会が設けられています。

⑨東大阪市スポーツみらいアンバサダー

本市ゆかりのアスリート等を委嘱し、本市が進めるスポーツを通じたまちづくりと、みらいのトップアスリートをめざす子どもたちを応援するアンバサダーとして、活動いただいています。

本市主催の子ども向けスポーツイベントへの参加やスポーツを通じた魅力PR活動を行っていただいております。これからもアンバサダーの方々と連携しながらスポーツを通じた東大阪市の魅力発信に努めます。



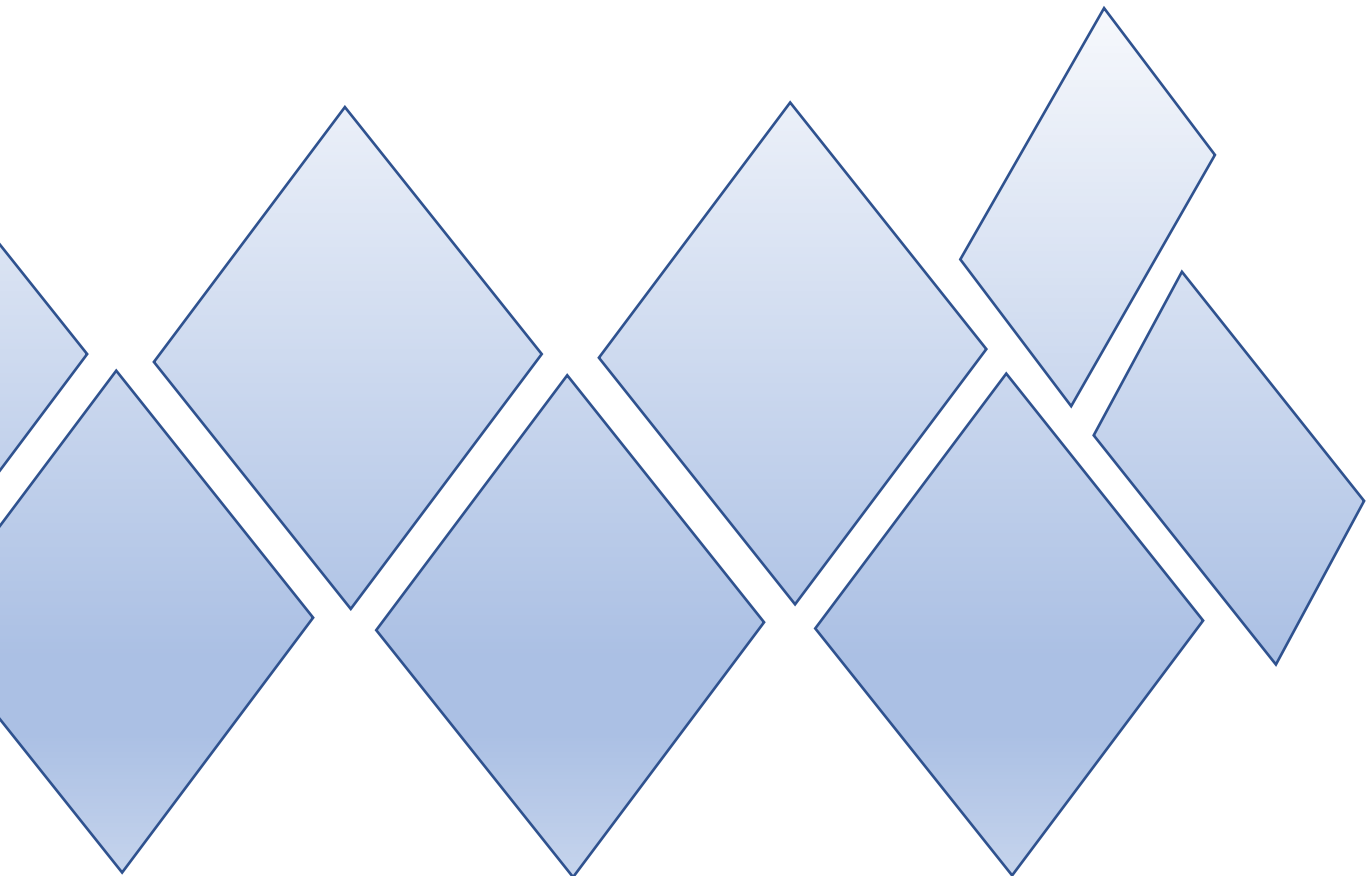
スポーツみらいアンバサダーの
松下浩二氏による
子ども向けスポーツイベント



スポーツみらいアンバサダーの
三阪洋行氏による
車いすラグビー体験イベント

第3章

プランづくり ～振り返りと課題～



第3章 プランづくり ～振り返りと課題～

1. 前計画の実績

(1) 前計画の指標(スポーツ実施率)

前計画では、スポーツ参画人口の拡大をめざし、「スポーツ実施率65%」という目標を設定しました。国がスポーツ基本計画において設定した目標を参考に、「週に1回以上、スポーツ・運動を実施する成人の割合」を65%にすることを目標とし、計画推進に取り組んできました。

令和5(2023)年度東大阪市民アンケートでは45.21%であり、目標達成には至りませんでした。各年の推移を見ても、大幅な増減なく、概ね40%前半で推移しており、令和2(2020)年度のみ46.60%と高くなっていますが、期間中を総合して大きな増減は見られない結果となりました。

この結果について、計画の成果がなかったとも考えられますが、この期間については前計画策定時には想像しえなかった、未曾有の「新型コロナウイルス感染症」の蔓延がありました。令和2(2020)年4月からは緊急事態宣言も発令され、また感染症法上の位置づけにおいても「2類相当」に指定されたことにより、大幅な行動制限が課され、スポーツがしたくてもできない状況に陥りました。

このような状況においてもスポーツ実施率が大幅に低下しなかったことを鑑みると、計画がまったくの無効であったとは判断し得ません。総括すると、スポーツ実施率は大きく変わらなかったものの、未曾有の状況下にあった中で、スポーツ実施率のみでひとえに第1期計画の成果を結論付けるのは難しい状況といえます。

ただし、この間のスポーツの喪失・制限により様々な影響が顕在化したことで、反射的に、スポーツが、日頃、我々の生活や社会に活力を与えるなど、優れた効果を及ぼす重要な価値を持つことが改めて再認識されたという一面を持ち合わせています。

	目標値	平成30 (2018)年	平成31 (2019)年	令和2 (2020)年	令和3 (2021)年	令和4 (2022)年	令和5 (2023)年
東大阪市	65%	42.14%	42.96%	46.60%	42.10%	42.97%	45.21%
国	65%	55.10%	53.60%	59.90%	56.40%	52.30%	-

(2) 基本方針における項目ごとの取組

前計画では、スポーツの有用性を発揮すると考えられる分野について、以下の4つを基本方針と定め、関係団体及び関係部局と連携のもと取組を推進しました。

- ①スポーツに参画する多様な手段と機会の創出
- ②スポーツを通じた心身の健康と活力の増進
- ③スポーツを活用した経済活性化と魅力の創造
- ④スポーツを契機とした共生社会の実現

基本方針① スポーツに参画する多様な手段と機会の創出

スポーツに参画する手段として「する」だけでなく「みる」、「ささえる」という様々な関わり方において促進施策を講じ、市民や事業者がスポーツに対し多角的に参画する機会の創出を図りました。

イベント等の具体施策としては初心者向け体験型スポーツイベント「してみる」を年2回から3回程度開催し、講師としてトップアスリートを招き、平成31(2019)年度から令和5(2023)年度の5年間では、下記の18のスポーツ団体等にご参画いただきました。トップレベルのスポーツを「みる」機会の充実を図るとともに、市民とプロスポーツ選手等がふれあう場を積極的に創出しました。

■スポーツチーム

花園近鉄ライナーズ、FC大阪、大阪ゼロロクブルズ、オリックス・バファローズ、日本ペイントマレッツ、YONEXバドミントンチーム、大阪ラヴィッツ、JTマーヴェラス、タツタ電線株式会社バスケットボール部、NOBY T&F CLUB、関西アンバランス、近畿大学体育会洋弓部(順不同)

■スポーツプレーヤー等

松下浩二(卓球)、古川静香(バドミントン)、山本みどり(テニス)、杉原愛子(体操)、YOHEI(バスケットボール)、富岡耕児(ラグビー)、泉建史(フィジカルトレーナー)
(順不同、敬称略)

基本方針② スポーツを通じた心身の健康と活力の増進

健康分野におけるスポーツの有用性の周知をさらに強化するとともに、スポーツを通じた心身の健康と活力の増進に寄与する取組を推進しました。

従前より実施されていた東大阪市健康増進計画など取組に加え、働いているときは時間的な余裕もなく、健康のために身体を動かす意識が持ちにくいと考えられる働く世代をターゲットとした、『マスターズ花園』や『ひがしおおさか企業交流運動会』を開催し、健康増進等を目的としたスポーツに対する意識を向上させるための取組を推進し、事業者に対してもスポーツへの理解を深めるよう働きかけを行いました。

基本方針③ スポーツを活用した経済活性化と魅力の創造

スポーツ参画人口が増加することでスポーツ自体の社会的価値が高まり、スポーツ産業の規模拡大や地域ブランドの向上につながり、また産業面では市民のスポーツ関連消費が増えるだけでなく、スポーツツーリズムの振興による交流人口の増加による消費拡大が期待されるものととらえ、経済活性化を図りました。

スポーツツーリズムを目的とした施策については、「マスターズ花園」を開催し、高校時代に聖地“花園”をめざしたラガーを再び花園ラグビー場に呼び戻しました。マスターズ花園においてはラグビー競技から離れていたマスターズ世代をもう一度競技復帰させることやOB会などの活性化を促し、現役世代へ還元もめざしました。

スポーツ及びラグビー人口の増加とともに、全国各地から2日間で数多くのラガーが花園に訪れ、金銭的に多くの消費が期待できるマスターズ世代をターゲットとし、経済活性化に寄与しました。

■スポーツツーリズムとは

スポーツツーリズムとはスポーツを「みる(観戦)」「する(楽しむ)」ための移動だけではなく、周辺の観光要素や、スポーツを「ささえる」人々との交流や地域連携も付加した旅行スタイルです。既存のスポーツ資源のほかにも地域資源がスポーツの力で観光資源となる可能性も秘めています。

基本方針④ スポーツを契機とした共生社会の実現

記憶に新しい東京2020大会では障害者スポーツへの注目が非常に高まりました。本市では障害のある方がスポーツに参加する機会と環境の充実を進めるとともに、障害者スポーツを健常者も一緒に体験できるインクルーシブなスポーツとして推進しました。

環境整備としては、前身の東大阪市ウィルチェアスポーツ広場を閉場し、令和3年(2021)2月にウィルチェアスポーツコートを開場しました。令和2(2020)年11月には一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会とパートナーシップ協定を締結し、車椅子ソフトボールの全国大会の開催や日本代表合宿、国際大会の誘致をすることで、「ウィルチェアスポーツの聖地」として大きく前進しました。なお、本市における「ウィルチェアスポーツを通じたまちづくりの推進プロジェクト」はスポーツ庁の「スポまち!長官表彰2022」を大阪府内で初めて受賞しました。

また教育現場においては希望する市内小学校を対象に車いすスポーツ体験授業を行いました。各学校の体育館でスポーツ用車いすを用い、車いすの操作や車いすバスケットボール、ボッチャを体験し、子どもの頃から人権感覚や共生社会に触れる機会を創出しました。



オリックス・バファローズ



YONEX



NOBY T&F CLUB



タツタ電線株式会社
バスケットボール部



日本ペイントマレッツ

2. スポーツ推進に向けた課題

課題1 スポーツ実施率の向上

P25【1.前計画の実績】でも言及したスポーツ実施率の向上において、上昇は見られませんでした。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、第1期計画の効果を正確に読み取ることは難しいとしました。

しかしながら、国のスポーツ基本計画と足並みを合わせ、今後も数字を向上させていく必要があることは以前同様変わらず、取り組んでいくことが不可欠であると考えます。

その中で、前計画においても取り組んできましたが、スポーツ阻害要因が多く、スポーツ無関心層であるビジネスパーソンや子育て世代、あるいは高齢者など、様々なライフステージにおいて、より一層丁寧にスポーツ施策を講じ、スポーツ実施率の向上と心身の健康づくりを目的にスポーツ・運動の普及に取り組んでいく必要があります。

課題2 花園ラグビー場など市のスポーツ資源の有効活用

本市はラグビーの“聖地”花園ラグビー場を有し、平成3(1991)年からラグビーのまちを標榜しております。東大阪市が一体となり、大成功を収めたRWC2019日本大会はラグビーそのものの価値を飛躍的に高める結果となりました。

これらで得られた財産である世界的なラグビースタジアムを今後も歩みを止めず、一過性のものにならないように規模や特色を最大限活用し、レガシーを継承していく必要があります。また、国際的なスポーツイベントや全国大会の誘致、プロスポーツチームのホームゲーム開催などに取り組み、花園ラグビー場及び本市のスポーツの魅力を高めるとともに、スポーツ資源を活かしたスポーツツーリズムの推進にも取り組み、スポーツを活用した地域の活性化や交流人口の増加を図る必要があります。

課題3 花園を中心とした地域住民のシビックプライドの醸成

本市がめざすスポーツのまちづくりや地域の活性化を実現するためには、スポーツのまちであるという地域住民のシビックプライドの醸成が必要不可欠です。

地域住民が魅力的なまちであると感じることで、住民満足度が向上し、地域やスポーツ団体が一つになり、スポーツのまちを醸成していくものと考えます。ひいては地域住民のウェルビーイングが達成されることで、地域への人口流入を呼び込み、更なる地域経済の活性化に期待ができます。

その中において令和5年度東大阪市民アンケートでは「スポーツが盛んなまちだと感じている市民の割合」は62.09%に留まっています。このことから、今まで以上に地域住民や企業、スポーツ団体などを巻き込み、東大阪市全域でワンチームとなり、スポーツのまちづくりを推進していくことが必要です。

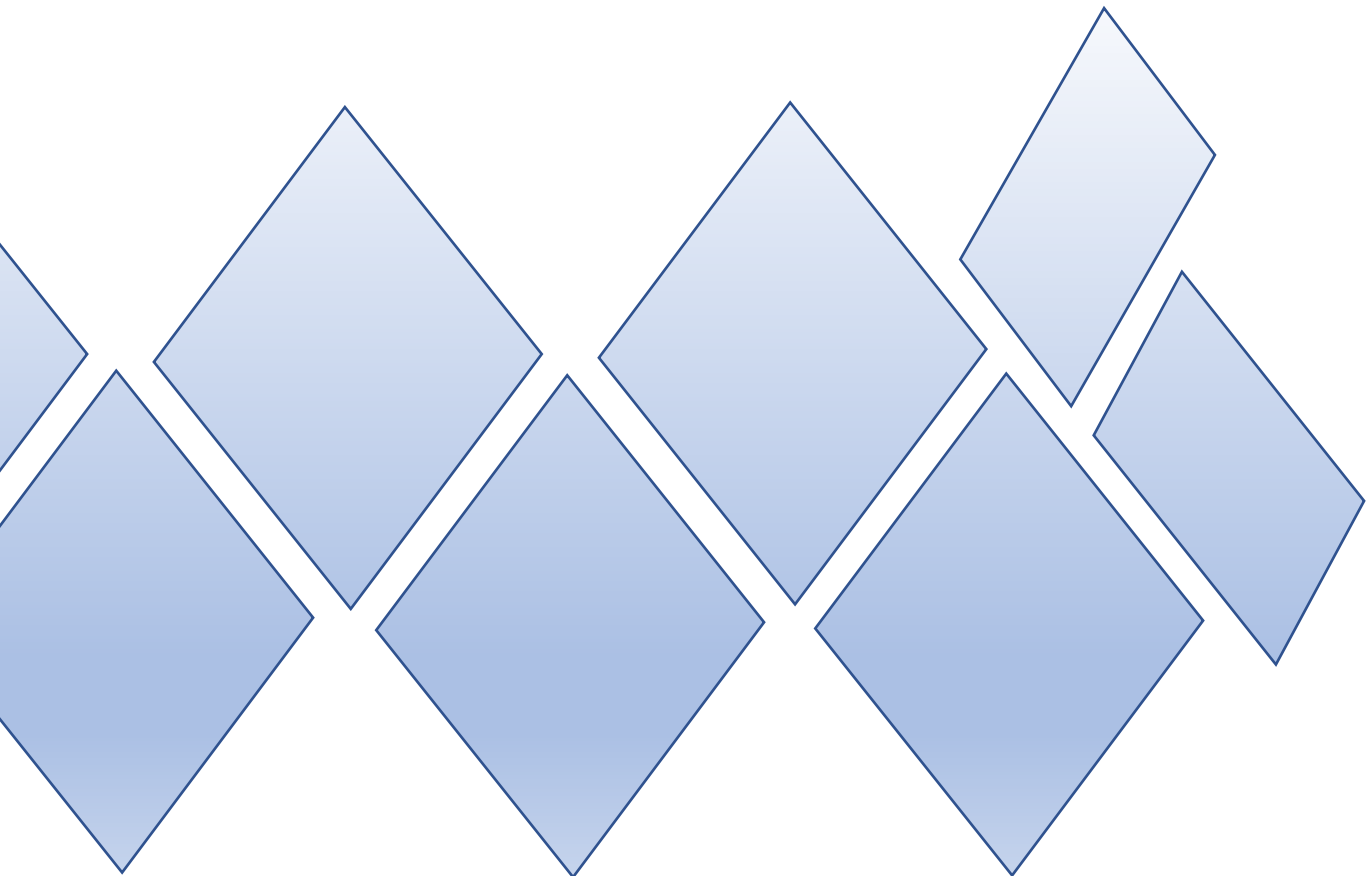
■シビックプライドとは

シビックプライドとは、「地域への誇りと愛着」を表す言葉です。

自分たちの住むまちをより良いものに、そして誇れるものにしていこうという思いを指しています。「郷土愛」にも似ていますが、少しニュアンスが違います。郷土愛は、住民自らが育った地域に対して愛着をもつことですが、シビックプライドは、まちを自分が責任をもってよくしていこうという思いや、自分自身が地域の構成員であると自覚し、さらにまちを良い場所にしていこうとする「意志」が含まれます。

第4章

基本方針／施策指標



第4章 基本方針／施策指標

1. 施策体系図

基本理念

ENJOY SPORTS! ENJOY LIFE!

～誰もがいつでもいつまでも
スポーツにトライできるまち ひがしおおさか～

基本方針①

誰もがスポーツに
アクセスできる
まちづくり

施策1 ライフステージに応じた機会の提供

- (1) 子どもスポーツファースト
- (2) 高齢者におけるスポーツ推進
- (3) ビジネスパーソンや子育て世代への
スポーツ・運動の普及推進

施策2 スポーツ・運動習慣定着による健康増進

施策3 スポーツを契機とした共生社会の実現

- (1) 障害者スポーツの理解啓発の推進
- (2) ウィルチェアスポーツコートを核とした
共生社会の実現への取組

基本方針②

スポーツのまち
東大阪の魅力創出

施策4 花園ラグビー場を中心とした ラグビーのまちのリブランディング

- (1) 地域住民におけるシビックプライドの醸成
- (2) ラグビーに参画する多様な手段と機会の創出

施策5 トップスポーツチームとの連携

- (1) ホームゲーム等の開催
- (2) プロスポーツチームとの連携による情報発信
- (3) 地域住民との交流促進

施策6 大規模スポーツイベントへの取組強化

- (1) ワールドマスターズゲームズ2027関西に
おける機運醸成
- (2) 全国大会等の誘致・開催

施策7 スポーツビジネスの推進

- (1) スポーツビジネスの創出
- (2) スポーツを通じた国際交流

2. 基本方針

基本理念の実現に向け、本市における豊富なスポーツ資源を活用し、2つの基本方針により、スポーツの推進に取り組みます。

基本方針① 誰もがスポーツにアクセスできるまちづくり

東大阪市第3次総合計画では「若者・子育て世代に選ばれるまちづくり」「高齢者が活躍するまちづくり」などが重点施策に位置付けられており、本計画においてもスポーツを楽しむ心身の状況や身体能力などはそれぞれ様々であることを踏まえ、ライフステージに応じ、スポーツの多様な楽しさに触れる機会を様々な形で提供していくことで、誰もがスポーツにアクセスできるまちづくりを推進します。

また、スポーツに参加し、スポーツの価値を体感できるような社会を実現するためには、その前提として、性別、年齢、障害の有無、経済的事情、地域事情等、それぞれが置かれた状況によって、スポーツに取り組むことを諦めたり、望まずに途中で離れたりすることがないように、誰もがスポーツにアクセスできる社会の実現や機運の醸成をめざすことが重要であると考えます。

また、アクセスをすることができたとしても、自分の意志に反してスポーツから離れることのないよう様々な支援策を講じ、スポーツにアクセスし続けられる環境を整えるとともに、幅広い世代の市民が、スポーツを身近に、気軽に行う機会を創出することで、スポーツ・運動習慣の充実をめざします。

さらには、本市のスポーツ資源を活用し、生涯学習出前講座の推進など、多くの市民がスポーツ活動に参加できるきっかけをつくり、若者やビジネスパーソン、高齢者、障害者などが互いに支えあう共生社会の実現をめざします。



施策1. ライフステージに応じた機会の提供



(1) 子どもスポーツファースト

子どもたちのスポーツを楽しむ環境を整え、喜びや充足感を得て、健やかな生活を送ることができるよう、未就学から高校までにおけるスポーツ・運動を推進します。

そのために、学校体育や部活動における取組をはじめ、地域で活躍する未来のアスリートへの支援や、まだスポーツをしていない子どもへアプローチするイベントを開催することにより、未来ある子どもの可能性を最大限引き出す取組の充実をめざします。本市の未来を担う子どもたちに本市のスポーツ資源を活用し投資することで、若者のウェルビーイングが向上し、住んでよかった、住み続けたいと思っただけのまちづくりを実現します。

令和4年度世論調査(スポーツ庁)では、10代の「スポーツ・運動の実施が増加した理由」に、「好きになったから」が高い割合となっていることから、スポーツに触れる機会や環境づくりを進め、スポーツの楽しさを体験し「好き」になることが重要であり、そうした体験が途切れないよう創意工夫することが求められます。

なお、幼少期からスポーツを通じて身体を動かし、仲間や友達と様々な体験を積むことは、心肺機能や骨形成にも寄与するなど、一生涯にわたって健康を維持したり、何事にも積極的に取り組む意欲を育んだりするなど、豊かな人生を送るための基盤づくりとなる点で重要であると考えます。

このため、幼少期からスポーツ・運動を体験する場として重要となる学校教育における体育や運動部活動の充実を図るとともに、身近な場所でスポーツ・運動に触れる機会の確保や充実を図ることで、体力の向上、心身の育成、スポーツ・運動に対する関心の向上に取り組みます。

■主な取組

- ▶ トップアスリート連携事業や「してみる」などのトップアスリートと触れ合う機会の創出
- ▶ すべての子どもが参加しやすい、健全育成や体力づくり、仲間づくりを目的としたスポーツ大会やイベントの開催
- ▶ 未来ある子どもの活動を後押しするクラブ活動運営費補助事業や全国大会等出場補助事業などの支援事業
- ▶ スポーツマウスガード作製費用の補助事業
- ▶ 高校ラグビー大会の思い出づくり支援事業及び更なる機運醸成にかかる支援



未就学児対象の野球体験イベント
キッズボールパーク



初心者向け体験型スポーツイベント
してみる

(2) 高齢者におけるスポーツ推進

東大阪市第3次総合計画では「高齢者が活躍するまちづくり」が重点施策と掲げられており、本計画では、スポーツにおいて、高齢者が生き活きと活躍するまちづくりを推進します。

高齢者を取り巻く現状について、後期高齢者の増加や高齢者単身世帯、認知症高齢者が増加する一方で生産年齢人口が減少するといった人口構造の大きな変化とともに、介護保険制度に対する需要が増し、持続性の確保が大きな課題となっています。

このような現状を踏まえ、個々の高齢者が生きがいを感じ安心して暮らすことができることに加え、スポーツを通じた介護予防や健康づくり等の取組により高齢化といった社会全体の課題に対応していくという視点をあわせもって、高齢者を対象とするスポーツ施策に取り組む必要があります。

本市ではスポーツを「する」のみならず、スポーツが「好き」で「みる」ことにもフォーカスして推進します。例えば、高齢者がスタジアムに足を運びスポーツ観戦をすることは「リラックス効果や主観的幸福感の向上、さらには認知機能や抑うつ症状の改善」など、様々な研究結果が出ています。このことから、高齢者に積極的にスポーツに参画し、「楽しむ」機会を提供し、健康寿命の延伸やアクティブ・エイジング※をめざします。

一生涯にわたり、健康で生き活きと過ごすことができる生活の実現には、若い世代から習慣的にスポーツをすることも重要であることに加え、スポーツを通じて高齢者が他の世代と触れ合い、ともに楽しむことで、地域での居場所や生きがいを創出していく観点から取組を進めます。

■主な取組

- ▶ 花園ラグビー場高齢者招待事業など、プロスポーツチームと連携し、高齢者の活力増進に寄与する企画の開催やスポーツ・運動を通じた健康増進につながる取組の情報発信
- ▶ 新しい介護予防プロジェクト「トルクひがしおおさか」との連携をはじめ、高齢者関係部署とスポーツ担当部署の連携体制の構築
- ▶ 急速に進展する現代の情報社会の中における高齢者への有効な情報発信
- ▶ 高齢者のニーズに応じたスポーツ教室の開催
- ▶ 楽しくトライ体操などの健康増進を目的とした体操や取組の普及
- ▶ 地域の交流の場となるグラウンドゴルフ・ゲートボールの普及



トルクひがしおおさか



高齢者招待事業
(FC大阪の選手とエスコート入場)

※アクティブエイジング: 生活の質を下げることなく社会参加を続けながら年齢を重ねていくこと、そのための社会的な取り組みを指す。

(3) ビジネスパーソンや子育て世代へのスポーツ・運動の普及推進

本市ではこれまで子ども向けイベントを多く開催してきましたが、スポーツ阻害要因が多く、スポーツ無関心層であるビジネスパーソンや子育て世代に対し、スポーツ実施率の向上と心身の健康づくりを目的にスポーツ・運動の普及に取り組みます。余暇時間が少ないビジネスパーソンに対し、その限られた時間でできるスポーツ・運動や職場でのスポーツの推進や子育て世代に対しては、自宅でできる運動をはじめ、親子で参加できるスポーツイベントや、企業参加型のスポーツイベントを開催し、スポーツを「好き」で居続けられる環境を提供します。

令和4年度世論調査(スポーツ庁)から、働き盛り・子育て世代を含む20~50代のスポーツ実施率は、全体平均を下回り、特に40代がもっとも低くなっており、スポーツに無関心な層の存在がうかがえます。また、世代の特徴を反映し、「スポーツ・運動の実施阻害要因」として、「仕事や家事の忙しさ」が特に高くなっており、また、「子どもに手がかかるから」という理由は、30代がもっとも高く、全体的に男性よりも女性の方が高くなる傾向にあり、仕事や生活の状況はスポーツの実施に大きく関係しています。

このため、「する」「みる」「ささえる」いずれにおいても、自分に合った形で、忙しい毎日の生活の中、気軽にスポーツに触れることができるよう、様々なスポーツ情報の発信をはじめ、スポーツを楽しめるきっかけとなる機会や環境づくりに向けた取組を進めていくことが必要であると考えられます。

また、一生涯にわたり、健康で生き活きとした生活を送るためには、仕事や家事で忙しい世代が心とからだの健康を維持し、その後の健康な生活につなげることが重要であり、働き盛り・子育て世代を対象とした取組にあたっては、当該世代の健康をスポーツで支える視点をもって取り組む必要があります。

■主な取組

- 企業交流運動会などの企業を巻き込んだイベントの開催及び各企業へのスポーツ・運動への理解啓発や実施啓発活動
- マスターズ花園など、スポーツ現役世代以降の層が参加できるイベントの開催
- プロスポーツチームと連携し、親子で参加できるイベントなどの開催
- 自宅でできるスポーツ・運動の情報発信
- SNSや民間の情報サイトを活用したスポーツイベントの情報集約及び発信の強化
- 東大阪市スポーツ表彰制度などのスポーツに取り組む市民のモチベーションアップに繋がる取組の実施



はつらつ
ママさんバレーボール



ひがしおおさか
企業交流運動会

施策2. スポーツ・運動習慣定着による健康増進



スポーツ基本法の前文には、「スポーツは、心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たすものであり、健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠」と規定されています。スポーツを楽しみながら適切に継続することで、生活習慣病の予防・改善や介護予防を通じて健康寿命の延伸や社会全体での医療費抑制への貢献が期待されます。本市では子どもから高齢者まで皆がスポーツや運動を「楽しみ」、継続して行うための取組を実施し、健康増進を図ることにより健康長寿社会の実現をめざします。ひいてはスポーツを実施することで、活力の増進など、心身の健康に期待できます。

令和4年度世論調査(スポーツ庁)において、「スポーツ・運動を実施した理由」としては、「健康のため」が79.4%ともっとも高く、「体力増進・維持のため」「運動不足を感じるから」が続き、その他、「筋力増進・維持のため」「楽しみ、気晴らし」「肥満解消、ダイエットのため」などを含め、心身の健康にかかわる理由が顕著となっています。さらに、スポーツの価値としては、「健康・体力の保持増進」が72.6%ともっとも高くなっており、スポーツと健康は密接に結びついていると考えられます。

このため、誰もが、一生涯にわたり、健康で生き生きとした生活を送ることができるよう、スポーツによる健康づくりに重点的に取り組む必要があります。スポーツと健康づくりを進めるにあたっては、スポーツが生活の中に定着し、誰もが自然とスポーツを楽しみ、日々の生活を送り、健康づくりにつながることが理想の姿と考えられます。

そのためには、スポーツと健康分野等が緊密に連携して取組を行うことが重要であり、第3次東大阪市健康増進計画(健康トライ21)においても「生涯を通じて健やかな体とこころ、身体機能を維持していくためには、身体活動全体を増やし、運動習慣を身に付け、継続的に実践していくことが重要」とされています。

以上を踏まえ、具体的には、ポストコロナで途切れることなく、楽しくトライ体操などの習慣的に気軽にできるスポーツ・運動の啓発を進めるとともに、健康・長寿マイレージの活用やスポーツイベントにおいて、健康コンテンツの情報発信を行い、健康分野等と連携し、一体となってスポーツによる健康づくりに取り組みます。

■主な取組

- 生涯学習出前講座など、誰もがいつでもどこでも自発的にスポーツ・運動に取り組める生涯学習の機会提供
- 健康コンテンツを活かしたスポーツ・運動の推進(楽しくトライ体操、健康・長寿マイレージ、ハイキングガイドやウォーキングマップなど)
- 健康・長寿マイレージ、健康フェスタなどのイベントを活用した運動の普及・啓発
- 集客が見込まれるスポーツイベントにおける健康増進コンテンツの普及促進
- 運動しやすいまちづくりをめざした健康分野とスポーツ分野の連携
- 市内各地を拠点としたラジオ体操の普及



健康づくりを目的とした
市民グループの活動
(健康トライ応援隊)



健康づくりを目的とした市民グループの活動(きらりウォーク)

施策3. スポーツを契機とした共生社会の実現



(1) 障害者スポーツの理解啓発の推進

令和3(2021)年3月に策定を行った第4次東大阪市障害者プランでは、「障害のある人が生涯を通じて社会参加と自己実現を図り、生活の質を高めることができるように、学習機会の充実や、文化・スポーツ活動の充実、またレクリエーション活動を通じて障害のある人などの体力の増強や交流、余暇の充実を図る」とされており、スポーツを通じて障害者が豊かで質の高い生活を送ることをめざしています。

また、東京2020大会の開催を受け、障害者スポーツに対する関心は高まり、誰もが「する」「みる」「ささえる」といった様々な形で楽しむことができるスポーツの推進を通じて、共生社会を実現していくことの重要性が再認識されました。令和7(2025)年11月には、ろう者のオリンピックであるデフリンピックの100周年記念大会が東京で催されるため、東京2020大会に引き続き、障害者スポーツへの関心を高める機会を迎えます。

本市においても障害者がスポーツを通じて社会参画することができるよう、障害者スポーツを推進するとともに、スポーツを実施していない非実施層に対する関心を高めることや障害者スポーツの体験等による一般社会に対する障害者スポーツの理解啓発に取り組むことにより、人々の意識が変わり、共生社会が実現されることをめざします。

■主な取組

- 障害者スポーツに係る情報発信の充実
- バリアフリー化や、体育館等の車いす利用の可能化などスポーツ施設の利便性の向上
- 東京2025デフリンピックの機運醸成イベントの開催
- 庁内におけるスポーツ推進担当と障害者スポーツ担当との連携体制の強化
- 障害者スポーツにおける企業研修の実施支援
- バリアフリーマラソンなどの民間団体が実施するイベントへの支援
- 東大阪市スポーツ推進委員によるボッチャの普及



スポーツの祭典でのボッチャ体験



車いすラグビー体験会

(2) ウィルチェアスポーツコートを核とした共生社会の実現への取組

本市では障害の有無や年齢、性別に関係なく、みんなと一緒に楽しむことができるインクルーシブ(包括的)なスポーツとしてウィルチェアスポーツを推進しています。

また、ウィルチェアスポーツをより本格的に推進していくため、トイレ、照明等を完備し屋外施設では全国にも例のない本格的なウィルチェアスポーツの拠点「東大阪市立ウィルチェアスポーツコート」を花園ラグビー場東側に整備しました。近年はウィルチェアスポーツの普及、理解啓発を目的として、車椅子ソフトボールの大会を本市最大級の催しである「HANAZONOEXPO」と同時開催することに取り組みました。

今後もこういった取組を新たなビジネスモデルとして活用、応用し、ウィルチェアスポーツ並びにコートの認知度拡大を図り、ひいては共生社会の実現に努めます。

■主な取組

- パラリンピック種目をはじめとする様々なウィルチェアスポーツの体験会の実施
- 市内、各小学校へのウィルチェアスポーツ体験の出前授業の実施
- 車椅子ソフトボール日本代表合宿、日本代表選考会の招致
- ウィルチェアソフトボールHANAZONO CUP(全国大会)の開催
- 車椅子ソフトボール大会における国際親善試合の開催
- プロスポーツチーム興行と連携したウィルチェアスポーツ体験会の実施及び啓発活動



小学校へのウィルチェア
体験出前授業



車椅子ソフトボール
国際親善試合



基本方針② スポーツのまち東大阪の魅力創出

本市は高校ラグビー大会が毎年開催されるほか、「RWC2019日本大会」、「WMG2027関西」においてラグビー競技の開催会場になるなど、花園ラグビー場は日本だけでなく、世界に知られるラグビーの聖地となっています。

そこでゴールドenspportsイヤーズのレガシーの継続と花園ラグビー場の更なる利活用によるスポーツの可能性を最大限に発揮するため、平成29(2017)年よりスポーツのまちづくりを推進してきました。近年はJリーグが開催されるなど、プロスポーツがさらに身近に感じられるようになり、これらのスポーツ資源をいかに生かし、地域の活性化や住民満足度の向上に寄与できるかが重要になっております。

また、本市はモノづくりをはじめ文化施設、寺社仏閣、自然豊かな生駒山など、スポーツ・観光・文化、様々な観光資源を有しています。スポーツ庁のスポーツ基本計画においても、アウター施策として、「スポーツを活用した経済・社会の活性化」を掲げており、本計画では、更なるスポーツツーリズムを推進し、スポーツを通じて日本全国に本市の魅力を発信するとともに、スポーツを通じた国際交流の発展にも注力します。

上記からなる本市が誇る豊富なスポーツ資源や市魅力を有効活用し、相乗効果を生み出し、本市独自のスポーツ文化の発展をめざします。



施策4. 花園ラグビー場を中心とした ラグビーのまちのリブランディング



(1) 地域住民におけるシビックプライドの醸成

本市はラグビーの“聖地”花園ラグビー場を有し、平成3(1991)年からラグビーのまちを標榜しております。東大阪市が一体となり、大成功を収めたRWC2019日本大会はラグビーそのものの価値を飛躍的に高める結果となりました。

そして、そのレガシーを継承し、現在に至るまで、ラグビー振興、ラグビーに関する様々な施策を講じてきました。しかしながら、令和5(2023)年東大阪市市民アンケートでは「東大阪市がラグビーのまちであることに誇りを感じる」という問いに対し、「そう思う」が50.4%「どちらかと言えば思う」が36.5%との結果でした。様々な受け取り方ができますが、花園ラグビー場を中心とした地域の活性化を推進する中で、花園からその他のエリアへのラグビーのまちであるという機運が十分に波及していないと考えられます。

今後は、地域スポーツコミッションでもある東大阪版DMOの一般社団法人東大阪市ツーリズム振興機構(以下「ツーリズム振興機構」という。)などを通じて、飲食店や商店街、交通事業者、宿泊施設などを巻き込み、市内全域へ賑わいのエリアマネジメントに取り組み、東大阪でワンチームとなり、更なるラグビーのまちづくりに努めます。

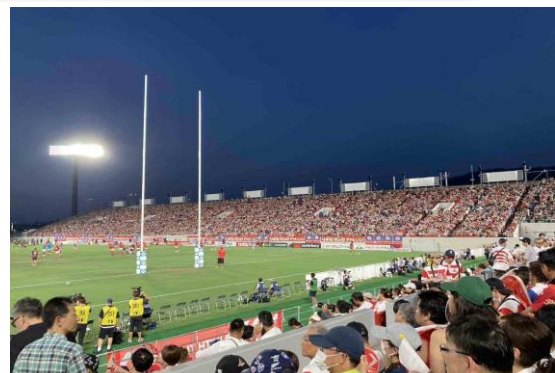
公益財団法人日本ラグビーフットボール協会(以下「日本ラグビー協会」という。)の「JAPAN RUGBY中期戦略計画2021-2024」では『世界一ラグビーが身近にある国へ』と掲げられています。本市においても、『日本一ラグビーが身近にあるまち』をめざし、日本ラグビー協会及び一般社団法人大阪府ラグビーフットボール協会(以下「大阪府ラグビー協会」という。)、並びにラグビーとの地域協創を推進する自治体連携協議会(以下、「自治体ワンチーム」という。)などと連携協力し、今後はさらに効果的な取組を講じ、ラグビーのまちのシビックプライドを醸成し、さらには一過性では終わらない花園を中心とした真のラグビーのまちづくりをめざします。

■主な取組

- 「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ」プロジェクトの推進
- ラグビー日本代表戦の積極的な誘致活動
- 高校ラグビー大会の思い出づくり支援事業及び更なる機運醸成にかかる支援
- 花園を中心とした賑わい創出及び地域活性化の取組及び花園ラグビー場を活用したシティプロモーションの強化
- ツーリズム振興機構などと連携した、花園以外のエリアへ賑わいが波及する取組の実施
- ウェブサイト、SNSなどを活用したラグビーに係る情報発信の充実
- 日本ラグビー協会及び大阪府ラグビー協会、並びに自治体ワンチームなどと連携協力し、ラグビーの裾野を広げる取組の実施



全国高等学校
ラグビーフットボール大会



花園ラグビー場で行われた
ラグビー日本代表戦

(2)ラグビーに参画する多様な手段と機会の創出

様々なカテゴリーでのラグビーコンテンツの普及に取り組み、生涯スポーツとしての、ラグビー競技の価値向上に努めます。

具体的には日本ラグビー協会の「JAPAN RUGBY中期戦略計画2021-2024」でも取り上げられている「シニアラグビー」については、令和4(2022)年初開催となりました「マスターズ花園」を継続実施し、ラグビーから離れている層にアプローチを続け、呼び戻すとともに、日本ラグビー協会と連携しながら、全国のラグビー競技者、チーム・協会関係者、支援者と一体となりラグビー人口の増加に努めます。

さらに、高校ラグビー大会の賑わい創出にも取り組む他、全国大会に出場できなかった高校を花園ラグビー場に招致し、交流大会をおこなう「花園チャレンジマッチ」も実施し、スポーツツーリズムや花園のブランディング向上に取り組みます。

■主な取組

- ライフステージに応じた様々なラグビーイベントの開催
- 7人制女子ラグビー日本最高峰の大会「太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ」の花園開催などによる女子ラグビーの普及・啓発
- タグラグビー普及啓発推進事業を通じた市内小学生への、ラグビーの普及
- 花園近鉄ライナーズや花園ラグビー場で行われる高校ラグビー大会や大学ラグビーなどへの協力支援
- マスターズ花園における各地域予選実施を目標とした参加校増加
- 花園ラグビーの日、花園ラグビー週間の啓発と機運醸成する取組の実施
- 連協協定を結ぶ釜石市とラグビーを通じた施策交流



市内小学校へのタグラグビー出前授業



マスターズ花園

■地域スポーツコミッションとは

地域スポーツコミッションとは大規模スポーツ大会やスポーツ合宿の誘致、スポーツを通じた交流促進を行い、これらの活動を通じて交流人口の拡大を図り、来訪者に対してまちの魅力をPRし、さらに地域における消費を促すことで地域経済活性化につなげることを目的として活動する、スポーツツーリズムを推進するための中核となる組織です。

■DMOとは

DMOとは国が推進する観光地域づくり法人でDestination Marketing/Management Organizationの略。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人です。

施策5. トップスポーツチームとの連携



(1) ホームゲーム等の開催

花園ラグビー場では、花園近鉄ライナーズとFC大阪の2つのプロスポーツチームがホームスタジアムとしてホームゲームを開催しており、近年はさらにプロスポーツ観戦が身近で味わえるようになっていきます。また週末におけるプロラグビーとプロサッカーの共存については全国からその成果が注目されるなど、全国的にも突出したスポーツ資源です。

これらのチームを市民が一丸となって応援することで、シビックプライドの醸成につながります。また、ホームゲームの観戦を通じて子どもの夢や希望を育みます。

■主な取組

- 花園セントラルスタジアムにおける日本プロ野球ウエスタンリーグオリックス・バファローズホームゲームの開催
- 卓球Tリーグをはじめとするプロスポーツ興行の招致
- プロスポーツチームとの連携協定によるホームゲームにおける市民招待試合の開催
- トップスポーツチームにおける行政課題の解決に取り組むイベントへの支援

(2) プロスポーツチームとの連携による情報発信

本市をホームタウンとするプロスポーツチームの広報力を活用し、リーグ戦などの際に、全国各地から花園ラグビー場に訪れる観戦者やテレビ中継など、全国に向けて本市の魅力を発信し、本市のブランディング向上に寄与します。また、双方で広報協力をを行い、SNSなども活用し、プロスポーツチームのホームゲームやスポーツイベントなどの情報をはじめ、市政及び市の魅力並びにスポーツにかかる情報の発信をします。

■主な取組

- ジャパンラグビーリーグワンやJリーグの広報力を活かした全国への市の情報発信
- 市の広報媒体の活用によるプロスポーツチームの興行情報などの市民への情報発信
- ホームゲーム開催時の場外イベントブースにおける行政PRブースの出展
- 様々な広報媒体による相互の情報発信 (SNSや本庁舎1階モニターなど)
- ポスター、チラシ配布の協力 (市内小中学校、公共施設など)



ウエスタンリーグ
オリックス・バファローズ
ホームゲーム



市役所本庁舎一階の展示

(3) 地域住民との交流促進

本市ではトップスポーツチームがより身近にあるまちづくりをめざし、地域住民との交流促進に努めます。

スポーツみらいアンバサダーやトップスポーツチームとの連携により、子どもたちへのスポーツ教室や選手との交流イベントを開催するほか、学校へ講師などを派遣することで、チームと地域住民の交流を促進し、市民のスポーツへの関心を高めます。

■主な取組

- トップスポーツチームによるスポーツ教室の開催や生涯学習出前講座の実施
- ホームゲームでの交流イベントの開催（サッカー教室、賑わい創出イベントの開催）
- 市や地域のスポーツイベントへの選手やスポーツみらいアンバサダーの参加
- 地域商店街のイベントなどスポーツ以外のイベントへの選手やスポーツみらいアンバサダーの参加



花園近鉄ライナーズの出前授業



FC大阪の出前授業



スポーツみらいアンバサダーの
杉原愛子さんによるスポーツイベント



スポーツみらいアンバサダーの
上山友裕さん出演のスポーツイベント

(1) ワールドマスターズゲームズ2027関西における機運醸成

令和9(2027)年には生涯スポーツの祭典、WMG2027関西が開催され、本市、花園ラグビー場ではラグビーフットボール競技の開催が決定しています。

本大会は世界からトップアスリートやスポーツ愛好者が多数来場し、国籍を超えてマスターズラガーがプレーします。本大会は令和9(2027)年に延期となりましたが、ゴールデンスポーツイヤーズに行ったRWC2019日本大会のレガシーを継承し、賑わい創出策を講じ、海外チームをおもてなしするとともに、国際スポーツ大会を契機として、本市の魅力と活力を高めるほか、市民に国際交流の機会を提供します。

■主な取組

- 大規模国際スポーツ大会をめざした段階的な機運醸成と市内全域を巻き込み、一体となる取組の実施
- マスターズ花園の継続実施によるノウハウの醸成
- WMG2021関西組織委員会と連携し、機運醸成イベントの開催やノベルティ配布事業の実施
- 市内における更なる機運醸成を図るため、WMGポロシャツやパーカーの着用

(2) 全国大会等の誘致・開催

本市におけるスポーツ資源を効果的に活用するため、大規模興行や全国大会などの誘致に取り組み、スポーツツーリズムによる経済効果や地域住民のシビックプライド醸成に努めます。

令和5(2023)年のキャッチボールクラシック全国大会では花園ラグビー場を使用し、全国の野球少年をもてなすとともに、花園ラグビー場にユニフォームを着た野球少年が大勢集まるなど、花園ラグビー場の新たな活用方法にトライしました。また、大会では日本プロ野球選手会協力のもと、12人の現役プロ野球選手がゲストで出演しました。参加した子どもたちに達成感や他者との連帯感等の精神的充足や楽しさを理解してもらうとともに、取組を通じて市民のスポーツへの関心向上やシビックプライドの醸成につなげました。今後もプロ野球選手会や連携協定企業と連携し、全国大会の東大阪招致に取り組みます。

さらに、安全・安心にスポーツ施設を利用できるように、指定管理者と連携し、施設規模や特色ある施設機能を活かしたスポーツイベントの開催などにより、市内スポーツ施設の有効活用を図ります。

■主な取組

- マスターズ花園の継続実施及び参加校、参加者数増加の取組
- キャッチボールクラシック全国大会の継続的な開催誘致活動
- 花園セントラルスタジアムにおける日本プロ野球ウエスタンリーグオリックス・バファローズホームゲームの開催
- 全国大会や大規模スポーツイベント開催に伴う地域企業や商店と連携したおもてなしの取組実施



施策7. スポーツビジネスの推進



(1) スポーツビジネスの創出

スポーツ参画人口が増加することでスポーツ自体の社会的価値が高まり、スポーツ産業の規模拡大や地域ブランドの向上につながると考えられます。産業面では市民のスポーツ関連消費が増えるだけでなく、スポーツツーリズムの振興による交流人口の増加やスポーツ関連製品の需要拡大が期待されるものととらえ、前計画に引き続き、既存のスポーツ関連施策を活用するとともに新たな取組の創出による経済活性化を進めます。

本市では、交通機能の補完、市内移動の利便性の向上等の効果を期待し令和4(2022)年10月よりシェアサイクル実証実験事業を開始しました。例えば、周辺地域の寺社仏閣や自然環境を自転車でのんびりと散策したり、飲食店に立ち寄りたりした後で、花園ラグビー場でトップスポーツチームの試合を観戦し、その後に周辺温泉施設などに立ち寄ることは、サイクルツーリズムを通じた市民の健康増進、移動と消費を通じた域内の活性化、さらには東大阪の魅力をスポーツを通じて再発見することで地域への愛着が生まれるなど、多様な効果が見込まれる観光行動であると考えられます。

加えて、従来のスポーツツーリズムの推進にあたっては、多様なスポーツの全国大会の積極的招致や、本市をホームタウンとするスポーツチームの対戦チームを応援するために、遠方から花園ラグビー場へ訪れる観戦客、いわゆるアウェイツーリズムの存在も意識しながら、観光、食、体験とスポーツを融合させたスポーツツーリズムを重点的に取り組み、スポーツ自体の魅力を高めるとともに、スポーツを通じて他分野を活性化させることで、活力にあふれた楽しいまちづくりにつなげます。

以上を踏まえ、ツーリズム振興機構など、多様な主体と連携しながら、様々な形のスポーツツーリズムの推進に取り組みます。

■主な取組

- ▶ 東大阪市民チャレンジ登山大会などの生駒山を活用したイベントの開催
- ▶ 多様なスポーツにおける全国大会や合宿の積極的な招致活動
- ▶ ツーリズム振興機構などの市の魅力を管轄するステークホルダー※との連携強化
- ▶ 花園ラグビー場と観光とシェアサイクル実証実験事業の連携した取組の創出
- ▶ プロスポーツチームホームゲーム時の効果的なアウェイツーリズムの創出
- ▶ モノづくり企業をはじめとする民間企業とスポーツを通じた連携

■サイクルツーリズムとは

サイクルツーリズムとは自転車を活用した観光行動を指します。訪れた地域を自転車で回ること、ツーリング、グルメ、名所旧跡めぐりから聖地巡礼など、多種多様な旅の目的に対応できます。また健康増進や車での移動に比べ環境にも優しく、交通渋滞を起こしにくいいため地域への負荷も少ないのが大きな利点です。

■アウェイツーリズムとは

アウェイツーリズムとは、応援するクラブのアウェイゲーム観戦に伴う一連の旅行観光行為を指します。ホームタウンとしては対戦相手のサポーターを迎えるインバウンズがあり、地域経済の活性化や地域情報の発信など、新たな地域振興戦略として注目されています。

※ステークホルダー：「ビジネス上の利害関係者」を意味する。ステークホルダーが多様であることもスポーツビジネスの特徴の一つである。

(2) スポーツを通じた国際交流

本市では大阪・関西万博の機運醸成事業のHANAZONOEXPOを開催するなど、様々な分野における新たなイノベーションの創出や文化交流のきっかけとなるプラットフォームづくりを目的に様々な分野で国際交流を推進してきました。本計画では市の魅力を海外に発信することや、スポーツを通じた国・地域・人々のつながりを強めるために、スポーツを通じた国際交流の創出に努めます。

令和5(2023)年度にはウィルチェアスポーツコートにおいて、車椅子ソフトボールアメリカ代表を招致し、日本代表と国際親善試合を開催しました。国際交流において親和性のあるHANAZONOEXPOと同時開催することで、相乗効果を生み出し、更には、障害者スポーツともリンクし、花園において多様な共生社会の実現がなされました。

引き続き、大阪・関西万博における東大阪のスポーツPRや、ナショナルチームの招致、国際的な大規模イベントを通じ、スポーツを通じた国際交流の創出に努めます。

■主な取組

- 様々なスポーツにおけるナショナルチームの積極的招致
- 大阪・関西万博におけるスポーツのまち東大阪のPR
- ゴールデンスポーツイヤーズのレガシーを活かした、WMG2027関西での国際交流を生み出す取組の強化
- スポーツ資源を活用した市の魅力の海外への情報発信



東大阪市民チャレンジ登山大会



キャッチボールクラシック全国大会



車椅子ソフトボール国際親善試合



コラム②:ラグビー憲章～ラグビーの「5つのコアバリュー」～

2009年、ワールドラグビーのメンバー協会では、ラグビーが持つ人間形成に資する特徴として「品位、情熱、結束、規律、尊重」を示しました。

これらの特徴は、いまでは総じて「World Rugby Value(ワールドラグビー・バリュー)」と呼ばれており、ラグビー独自の特性と理念をフィールドオブプレーの中でも外でも守っていくための手引きである「ワールドラグビー・ラグビー憲章(The World Rugby Playing Charter)」の一部を構成するものとなっています。

これら5つのコアバリューは全員が心を一つに一体感を持つ、すなわちOne Teamとなるための最も基本となる考え方、価値観です。

品位

ラグビーをつくるものの中心であり、誠実さとフェアプレーから生まれる。

結束

ラグビーは、生涯続く友情、仲間、チームワークそして、文化的、地理的、政治的、あるいは、宗教的な垣根を越えた忠実さへと通じる、一つとなった精神をもたらしてくれる。

情熱

ラグビーに関わる人々は、ラグビーに対する熱い情熱を持っている。ラグビーは、感動を与え、思い入れをもたらし、そして、世界のラグビーファミリーへの帰属意識を生む。

規律

ラグビーにとってフィールドの内外で不可欠なものであり、競技規則、競技に関する規定、そして、ラグビーのコアバリューの遵守によって示される。

尊重

チームメイト、相手、レフリー、および、ラグビーに関わる人々を尊重することは、最も優先すべきことである。

出典:JRFU 公益財団法人日本ラグビーフットボール協会
ラグビーの5つのコアバリュー
<https://www.rugby-japan.jp/future/corevalues>

3. 施策指標

本計画はスポーツ基本法第10条第1項に基づく「地方スポーツ推進計画」として位置付けられ、各地域の実情に応じた内容となることが望ましいと示されており、それぞれの地方自治体は目標値を定めています。

本市においても、今後展開するスポーツ施策及び本計画の着実な推進、成果の客観的な評価のために、以下の指標と目標値を設定します。

総合目標 KGI 1.スポーツ実施率 65%

ライフステージに応じたスポーツ活動の推進を行い、スポーツ庁におけるスポーツ基本計画と同様「週に1回以上、スポーツ・運動を実施する成人の割合」を65%にすることをめざします。

※データソース「東大阪市市民アンケート」

基本方針① 誰もがスポーツにアクセスできるまちづくり

個別目標 KPI 2.スポーツ観戦率 現地観戦…45% テレビ等…90%

スポーツ基本計画に基づく「する」「みる」「ささえる」の理念に基づき、本市ではすることだけではなく、「みる」ことにフォーカスし、プロスポーツチーム等と連携することで、「みる」スポーツの推進により、現地観戦45%、テレビ、インターネット等による観戦90%をめざします。(概ね直近1年間とする。)

スポーツを現地観戦することはもちろん、スポーツが「好き」で自宅やインターネットなどで観戦することも「活力増進」や「気分の高揚」などに寄与し、スポーツの価値であると考えます。

※データソース「東大阪市市民アンケート」

個別目標 KPI 3.スポーツが好きな子どもの割合 増加

幼少期から、スポーツを通じて身体を動かし、様々な体験を積むことは、豊かな人間性を養うとともに、動ける身体的基础を作り、一生涯にわたり、健康で生き活きたした生活を送る基盤となる点で重要であることから「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」という問いに対し「好き」「やや好き」と答えた児童、生徒の割合を「増加」することをめざします。

※データソース「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」



基本方針② スポーツのまち東大阪の魅力創出

個別目標 KPI 4. 花園ラグビー場の年間来場者数 500,000人

スポーツのまち東大阪の核となる「花園ラグビー場の来場者数500,000人」をめざします。「花園ラグビー場×する・みる・ささえる人々」は、本市のスポーツブランドにおける生命線であり、それらの増加は、更なる花園の賑わい創出に寄与し、市のブランディング向上に直結します。

※データソース 「花園ラグビー場年間来場者数報告」

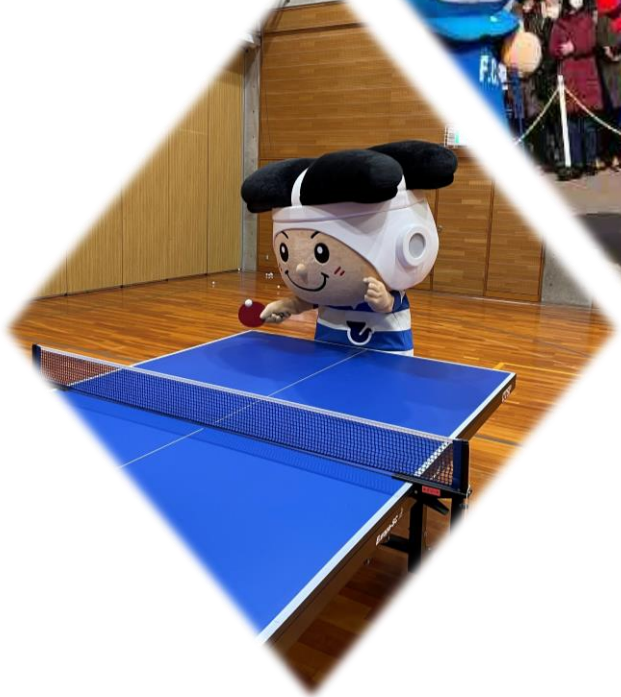
個別目標 KPI 5. 「スポーツのまち」だと感じている市民の割合 80%

平成29(2017)年にスポーツのまちづくり戦略室が発足し、スポーツのまちを標榜してから、様々な施策を講じてきました。今後も強かに推進していく中で、現地の把握及び着実に推進するため、目標として「スポーツが盛んなまちだと感じている市民の割合」80%と設定します。

本指標の増加は地域住民のシビックプライドの醸成につながり、住民満足度の向上や住み続けたいまちづくりに寄与します。

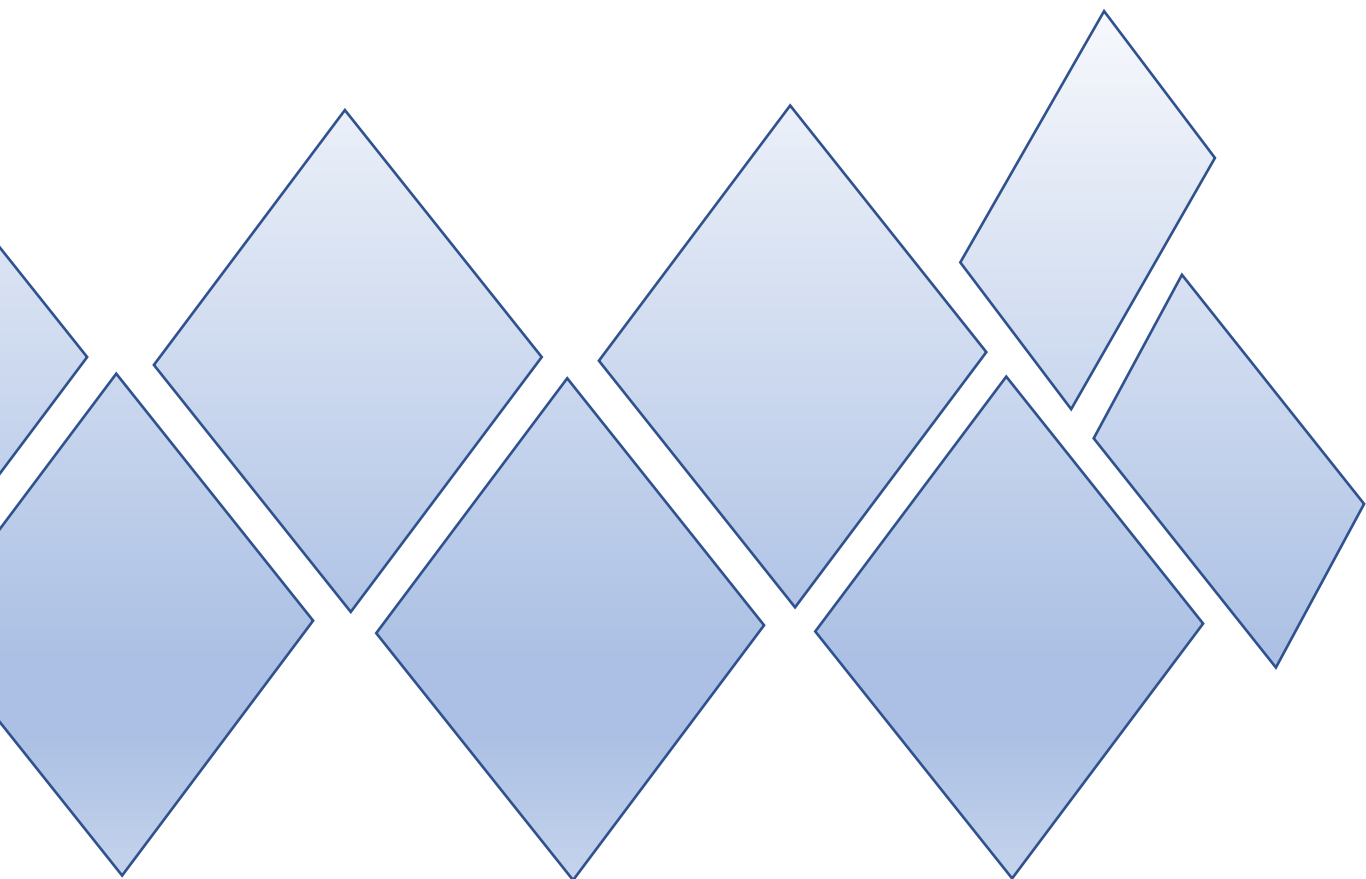
※データソース 「東大阪市民アンケート」

	指標	現状値 (R5)		目標値 (R10)
1	スポーツ実施率 (継続)	45.21%	>>	65%
2	スポーツ観戦率 (新規)	現地…34.45% テレビ等…88.27%	>>	現地…45% テレビ等…90%
3	スポーツが好きな子どもの割合 (新規)	児童 91.3% 生徒 86.3%	>>	増加
4	花園ラグビー場の年間来場者数 (新規)	422,706人	>>	500,000人
5	「スポーツのまち」だと 感じている市民の割合 (新規)	62.09%	>>	80%



第5章

計画推進のために



第5章 計画推進のために



1. 情報発信の強化

基本方針である「誰もがスポーツにアクセスできる」「スポーツのまち東大阪の魅力創出」を推進し、市民の「する」「みる」「ささえる」を実現するためには、情報を「つたえる」ことが不可欠になると考えます。

スポーツにかかわる「する」「みる」「ささえる」情報にアクセスできなければ、その先にあるスポーツに参加する活動はできず、スポーツが有する価値である「楽しさ」「喜び」を享受することはできません。

また急速に進展する現代の情報社会においては、インターネットやモバイル端末の普及により、どこにいても瞬時に情報を検索して入手できるようになった一方、情報が氾濫し、必要な情報を選びとることの難しさや情報格差の問題もあり、スポーツに関する様々な情報を一元的に集約して、わかりやすく情報発信することが重要であると考えられます。

このことから、社会状況の変化を的確にとらえ、享受者のライフステージに応じた情報発信を迅速かつ適時に行い、スポーツを「好き」で楽しめる機会の提供に取り組んでいくことが必要であると考えます。

DXの推進について

現在、ICT（情報通信技術）、AI（人工知能）、VR（仮想現実）、AR（拡張現実）などのデジタル技術開発が急速に進展し、DX※が社会の変革の原動力として期待されています。これらの技術は、人々の働き方やライフスタイル、健康管理、教育など、市民の生活に関わるあらゆる分野で活用されています。

スポーツ分野においても、トレーニング動画のオンライン配信やオンラインによる遠隔地での指導、VR・ARを活用した新たなスポーツを「する」「みる」体験などにより、スポーツの新たな価値の創造が進んでいます。

※DXとは「デジタルトランスフォーメーション」の略称であり、デジタル技術を活用してビジネスや日常生活などをより便利で豊かにすることです。

2. 庁内における連携

本計画においては、スポーツによる健康づくり、スポーツツーリズムの推進に重点的に取り組むように、スポーツには、スポーツを通じて健康、観光、高齢福祉、まちづくり等幅広い分野に貢献し、波及効果をもたらすことで、様々な地域課題や行政課題を解決することができる力を有しています。

以上を踏まえ、スポーツ自体の振興のみならず、スポーツの力を活用して、庁内の幅広い分野においてスポーツを通じた成長など、行政課題の解決に取り組むため、庁内、各部局の連携体制をより一層強化します。

3. 推進体制の強化

本計画に掲げた基本理念の実現や基本方針、施策の推進にあたっては、市内だけでなく、国や府、連携協定企業、トップスポーツチーム、地域スポーツ団体、競技団体、学校・大学、施設管理者、民間企業、NPO団体等との連携や協働が重要となります。

そのために、本計画をこれらのスポーツ関係団体と広く共有し、効果的な推進体制の構築を図ります。

4. 財源の確保

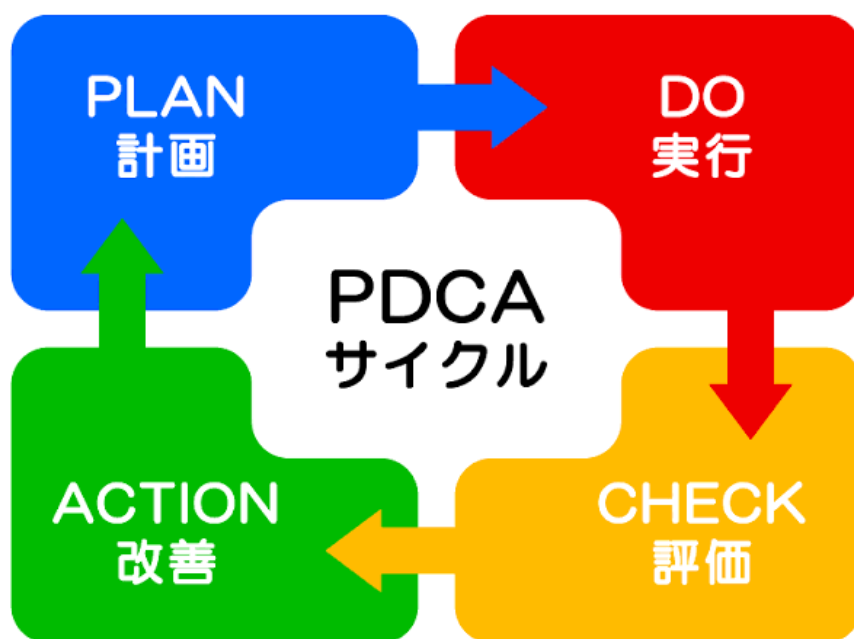
スポーツの果たす公共的役割の重要性に鑑み、市の責務として、本計画に基づくスポーツ施策を確実に実施していくためには、継続的かつ安定的に、予算を核とする財源の確保が図られるよう努めていくことが必要です。

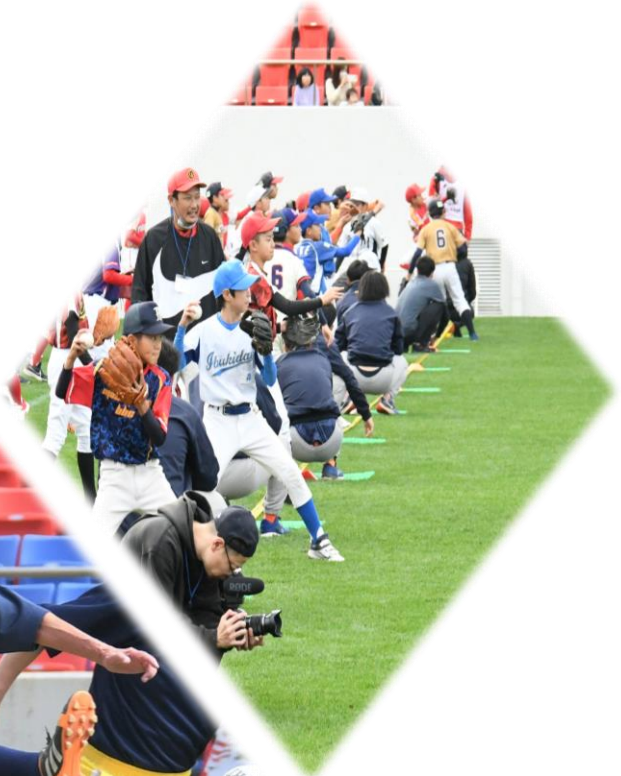
そのためには、厳しい財政状況の中、確保した財源の効率的・効果的な活用に努めることを前提として、地域の特性や現場のニーズに応じたスポーツ施策を主体的に実施できるよう、国や府に対して必要な支援を求めるとともに、国の支援やスポーツ振興くじ（toto）助成金等外部の資金を活用していくことが重要です。

また、膨大な財政負担を必要とするハード面における施設の整備については、財政負担を平準化し、トータルコストを縮減するため、スポーツ施設の長寿命化計画の策定に取り組みます。事業実施にあたっては民間協力者の獲得、またはクラウドファンディングといった新たな手法を含め、「する」「みる」「させえる」の基盤となる多様な財源の在り方について検討し、市の財政負担を軽減するよう努めます。

5. 進行管理

本計画の実効性を高め、効果的・効率的な推進を図るためには、適切な進行管理が必要です。PDCA サイクルによって、本計画で示した施策や取組の進捗状況等を定期的に把握・評価し、目標達成に向けた取組を着実に推進します。







資料編

資料編

1. 主なスポーツ施設

本市には国際試合を開催できる大型施設から、市民の方々向けのスポーツ・レクリエーション施設など様々なスポーツ施設があります。(令和6(2024)年3月現在)

種別	スポーツ施設	住所・連絡先	概要
ラグビー場 1か所	東大阪市花園ラグビー場	松原南1-1-1 072-961-3668	-
体育館 ・ 多目的 屋内施設 等 5か所	東大阪市立総合体育館 (東大阪アリーナ)	中小阪4-7-60 06-6726-1995	-
	東大阪市立東体育館	鷹殿町1-2 072-982-1381	-
	東大阪市立ウィルチェアスポーツコート	松原南1-1-1 072-961-3668	屋外型車いすスポーツ施設
	スポーツホールかがやき	角田2-3-6 072-962-8811	ゲートボール・軽スポーツ用
	市民ふれあいホール	鳥居町3-3 3・4F 072-982-6563	リズム体操・なぎなた・合気道・太極拳・バトン・エアロビクス・空手・ゲートボール・Jrテニス・ヨガなどが可能
多目的 屋外広場 4か所	花園中央公園多目的球技広場 (トライスタジアム)	花園中央公園内 072-960-3426	ラグビー、サッカー等 陸上競技
	池島市民広場	池島町4-4-10 072-988-2666	野球・サッカー等
	石切市民広場	中石切町5-4-55 072-981-7764	野球・サッカー等
	稲葉市民広場	稲葉1-11-50 072-966-2533	野球・サッカー等
テニス コート 6か所	中部緑地庭球場	中新開2-7-17 072-966-4661	人工芝コート 照明有4面 照明無5面
	金岡公園庭球場	大蓮東1-2 06-6723-0735	クレートコート2面
	荒本西公園庭球場	荒本西2-2 072-966-4661	クレートコート2面
	水走ルーフ庭球場	水走1-14-19 072-963-8878	人工芝コート6面
	長瀬青少年運動広場庭球場	長瀬町3-1-54 06-6720-1329	ハードコート1面
	三ノ瀬公園軟式庭球場	三ノ瀬1-6 072-966-4661	ソフトテニス専用 クレートコート3面

種別	スポーツ施設	住所・連絡先	概要
野球場 8か所	花園中央公園野球場 (花園セントラルスタジアム)	松原南1-1-43 072-960-3426	-
	吉原公園野球場	吉原2-2 072-966-4661	-
	金岡公園野球場	金岡1-2 06-6723-0735	-
	布施公園野球場	森河内東1-10 072-966-4661	-
	本庄南公園野球場	本庄中1-3 072-966-4661	-
	菱屋東公園児童野球場	七軒家6-6 072-966-4661	-
	長瀬青少年運動広場野球場	長瀬3-1-54 06-6720-1329	-
	荒本青少年運動広場野球場	荒本西2-1-11 06-6781-4321	-



2. 主なスポーツイベント

※令和5(2023)年4月現在で令和5年度実施予定のイベントです。開催時期他は目安、予定であり、令和6(2024)年以降の詳細は担当課にお問い合わせください。

No.	開催時期	イベント名	主催	開催場所	概要	人数(おおよその人数)	担当課
1	4月	春季ハイキング	旧河澄家	生駒山	辻子谷コースから生駒山麓の興法寺の桜やこぶしの花など史跡や自然を巡るハイキングです。	20人	文化財課
2	4月・9月	市長杯ゴルフコンペ	東大阪市老人クラブ連合会	ゴルフクラブ四条畷	市内の高齢者がグラウンドゴルフを通じて健康の保持と生きがいを高めるとともに生涯スポーツの普及、振興のために行っているゴルフコンペです。	100人	高齢介護課
3	5月・10月	市長杯グラウンドゴルフ大会	東大阪市老人クラブ連合会	吉田春日グラウンド	市内の高齢者がゴルフを通じて健康の保持と生きがいを高めるとともに生涯スポーツの普及、振興のために行っているグラウンドゴルフ大会です。	550人	高齢介護課
4	5月	初心者向けスポーツ体験イベント「してみる」	東大阪市	東大阪市立ウィルチェアスポーツコート 東大阪市花園ラグビー場	小学1～3年生を対象としたスポーツ体験イベント。プロスポーツチーム等と協力のもと、参加者にスポーツの魅力を伝え、関心を高めてもらうため行っています。	100人	花園・スポーツビジネス戦略課
5	5月	東大阪市民チャレンジ登山大会	東大阪市 東大阪市スポーツ推進委員協議会	生駒山	初級11km・中級16km・上級22kmと距離に応じて生駒山を歩きます。	250人	市民スポーツ支援課
6	6月	子ども人権ラグビー教室	東大阪市 東大阪市教育委員会 東大阪市人権擁護委員会	玉川小学校	「ラグビーのまち東大阪」としてラグビーの持つチームプレーの大切さ、フェアプレーの精神等に触れることでいじめの防止等、主に子どもに係る人権尊重思想を若年層に普及させるため、法務省人権啓発活動地方委託事業として実施しています。	150人	人権室人権啓発課
7	6月	キッズボールパークドリームキャッチ	東大阪市	タツタ電線体育館	未就学児やひとり親家庭等に対して簡単な野球教室を開催しています。	110人	花園・スポーツビジネス戦略課
8	7月	東大阪子ども会ソフトボール大会	東大阪市 東大阪市教育委員会 東大阪市子ども会育成連絡協議会	池島市民広場	子ども会会員が、ソフトボール大会を通じてチームワークを養うとともに、子ども会相互の親睦を図ることを目的に実施しています。	450人	青少年教育課
9	8月	宝くじスポーツフェアはつらつまママさんバレーボール	東大阪市 大阪府 一般財団法人自治総合センター	東大阪アリーナ	地元ママさんチーム向けにオリンピックメダリストなどと交流試合や懇親会を行います。	1000人	花園・スポーツビジネス戦略課
11	8月	初心者向けスポーツ体験イベント「してみる」(屋内版)	東大阪市	東大阪アリーナ	小学1～3年生を対象としたスポーツ体験イベント。プロスポーツチーム等と協力のもと、参加者にスポーツの魅力を伝え、関心を高めてもらうため行っています。	100人	花園・スポーツビジネス戦略課
12	8月	流行り歌(はやりうた)ピクス	東大阪市	長瀬老人センター	お馴染みの演歌や懐かしい曲に合わせて行う簡単なエアロピクスです。	25人	長瀬老人センター
13	9月・10月	ラグビーワールドカップパブリックビューイング	東大阪市 公益財団法人日本ラグビーフットボール協会	東大阪市花園ラグビー場	フランスで開催されたラグビーワールドカップの日本対チリ・アルゼンチン戦に合わせて開催します。	約10,000人	花園・スポーツビジネス戦略課
14	9月	健康のつどい	東大阪市	八戸の里老人センター	流行り歌(はやりうた)ピクス、なじみの歌に合わせておこなう簡単なエアロピクス(有酸素運動)です。	20人	八戸の里老人センター

No.	開催時期	イベント名	主催	開催場所	概要	人数(おおよその人数)	担当課
15	10月	カーリンコン大会	東大阪市老人クラブ連合会	東大阪アリーナ	市内の高齢者がカーリンコンを通じて健康の保持と生きがいを高めるとともに生涯スポーツの普及、振興のために開催している大会です。	300人	高齢介護課
16	10月	市民スポーツの祭典	東大阪市 東大阪市体育連盟 東大阪市スポーツ推進委員協議会	東大阪アリーナ 東体育館 花園中央公園 三ノ瀬公園	市民陸上、体力測定、ソフトテニス・バドミントン・リズム体操の集いなどを各所で行います。	800人	市民スポーツ支援課
17	10月	東大阪市民ポッチャ大会	東大阪市 東大阪市スポーツ推進委員協議会	東体育館	健常者、障害者が参加して一緒にポッチャを楽しみます。	30人	市民スポーツ支援課
18	10月	ひがしおおさか企業交流運動会	東大阪市	東大阪市花園ラグビー場	東大阪にある企業が勤務されている方等が参加し運動会を行います。	140人	花園・スポーツビジネス戦略課
19	10月	マスターズ花園	マスターズ花園実行委員会	東大阪市花園ラグビー場	40歳以上の元高校ラグビーを対象としたラグビー交流試合の開催します。	1000人	花園・スポーツビジネス戦略課
20	11月	ウィルチェアソフトボールHANAZONOCUP	東大阪市 一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会	東大阪市立ウィルチェアスポーツコート	アメリカなどの海外チームと日本各地のチームが参加し車椅子ソフトボール大会を開催します。また一般の方向けにスポーツ用車いす体験コーナーなども設けています。	3800人	花園・スポーツビジネス戦略課
21	11月	ダンスフェスタ東大阪	東大阪市 東大阪市教育委員会	東大阪市文化創造館	青少年がダンスを通じて自己を表現する場を提供し、同年代との交流を通じてより健全な成長を促すことを目的に開催しています。	300人	青少年教育課
22	11月	地域ふれあいのつどい	東大阪市障害福祉キャンペーン実行委員会	東大阪アリーナ ハ戸ノ里公園 市内障害福祉サービス事業所13か所	障害がある人もない人も楽しく交流するイベントです。アリーナではポッチャなどの障害者スポーツ体験コーナー、アート展作品の創作コーナー、エアバルーンなどがあり、ハ戸ノ里公園ではステージの発表や障害福祉事業所の屋台でにぎわいます。また、市内の障害福祉サービス事業所でも同日にモノづくり体験、授産品の販売などのイベントを開催しています。	4000人	障害施策推進課
23	11月	秋季ハイキング	旧河澄家	日下町周辺の史跡	日下周辺の史跡や自然を巡ります。	20人	文化財課
24	11月・3月	あるこう会	東大阪市	淡路島・国営明石海峡公園	高齢者の健康増進を目的に公園内約4kmをしっかりと歩きます。	1回45人(2回実施予定)	長瀬老人センター
25	12月	第48回東大阪市老人スポーツレクリエーション大会	東大阪市老人クラブ連合会	東大阪アリーナ	市内の高齢者がスポーツをする機会を通じて、健康の保持と生きがいを高めるとともに広く高齢者に対する理解と関心の高揚を図り、併せて各地域における高齢者スポーツの振興に寄与しています。	600人	高齢介護課
26	1月	枚岡公園クロスカントリー競走大会	東大阪市枚岡公園クロスカントリー競走大会実行委員会 東大阪市 東大阪市体育連盟	枚岡公園	枚岡公園内に特設コースを設定し、種別ごとにレースを行います。	530人	市民スポーツ支援課
27	3月	東大阪市民ゲートボール協会明るい選挙ゲートボール大会	東大阪市民ゲートボール協会	吉田春日グラウンド	明るい選挙の推進と政治意識の高揚を図り、あわせて健康の保持と増進を目的としたイベントです。	60人	選挙管理委員会事務局
28	3月	市民マラソン大会	東大阪市 東大阪市体育連盟	花園中央公園	花園中央公園内を小学生から参加できる市民マラソン大会を行います。	700人	市民スポーツ支援課

3. 東大阪市スポーツみらいアンバサダー

本市ではスポーツの分野で活躍している方等を通じて市の魅力を広く発信することで、スポーツを通じた地域活性化および都市ブランドの向上を図るため、スポーツみらいアンバサダーを委嘱しています。(令和6(2024)年3月現在)

スポーツみらいアンバサダー (敬称略・委嘱日順)	競技種目	競技成績
多田 修平	陸上短距離	東京オリンピック2020・100×4リレー出場 世界陸上2017ロンドン・100×4リレー3位 世界陸上2019ドーハ・100×4リレー3位
三阪 洋行	車いすラグビー	アテネパラリンピック2004・出場 北京パラリンピック2008・出場 ロンドンパラリンピック2012・4位入
上山 友裕	パラアーチェリー	リオデジャネイロパラリンピック2016・リカーブ個人7位 東京パラリンピック2020・混合リカーブチーム5位 パラアーチェリー世界選手権2022・リカーブ個人優勝
松下 浩二	卓球	バルセロナオリンピック1992・出場 アトランタオリンピック1996・ダブルス5位・シングルス9位 シドニーオリンピック2000・出場 アテネオリンピック2004・出場
杉原 愛子	体操	リオデジャネイロオリンピック2016・団体4位 東京オリンピック2020・団体5位 全日本体操種目別選手権2023・ゆか優勝



杉原愛子
令和4(2022)年9月24日就任



松下浩二
令和3年(2021)3月15日就任



上山友裕
平成30(2018)年10月20日就任



三阪洋行
平成30(2018)年10月14日就任



多田修平
平成29(2017)年9月12日就任

4. 東大阪市スポーツ表彰制度

東大阪市スポーツ表彰とはスポーツ基本法第20条の規定に基づき、スポーツの競技会において優秀な成績を収めた方及び本市のスポーツの発展に寄与した方に対し市長が表彰する制度です。本市は「スポーツのまち」として、市民がスポーツを「する」「みる」「ささえる」といった様々なかたちで関わる、スポーツに親しみ、スポーツを楽しむ、スポーツを軸とした多様なまちづくりに取り組んでおり、本表彰制度はその「ささえる」の一部を担うものであり、市民のスポーツにおいての功績を称え、さらなる飛躍・発展につながるよう実施するものです。



5. 連携協定企業

本市では、スポーツを通じたまちづくりに関する取組を実施することで市民のスポーツの関心の向上と地域活性化を目的に様々な企業・団体と連携協定を締結しています。以下はスポーツ分野における連携協定企業等。(令和6(2024)年3月現在)

連携企業・団体名(順不同)	主な協力内容
ジェイコムウエスト東大阪局	ラグビー場の通信機器整備・広報発信
大阪シティ信用金庫	スポーツイベントへの協賛
株式会社エスエスケイ	スポーツイベントへの協賛・協力
株式会社F. C. 大阪	スポーツイベント時に講師派遣等の協力・地域貢献活動等に関する広報活動
株式会社アールビーズ	スポーツイベントの募集
三井住友海上火災保険株式会社	スポーツイベント時に講師派遣等の協力
一般社団法人 日本車椅子ソフトボール協会	ウィルチェアスポーツの普及・大会の開催
ガイドードリンク株式会社	スポーツイベント時に講師派遣等の協力
タツタ電線株式会社	スポーツイベント時に講師派遣等・会場提供の協力
大塚製薬株式会社	スポーツイベント時にドリンク等の物品協賛
株式会社ノーサイド	ウィルチェアスポーツの普及・促進の協力
一般社団法人 大学スポーツコンソーシアムKANSAI	スポーツイベント時に講師派遣等の協力
第一生命保険株式会社	スポーツイベント時に講師派遣等の協力
井藤漢方製薬株式会社	スポーツイベント時にブース出展・物品協賛
釜石市	ラグビーによる地域活性化に関する交流等
株式会社ゼロロク	スポーツイベント時に講師派遣等の協力・地域貢献活動等に関する広報活動
ホテルセイリュウ(株式会社石切ゆめ倶楽部)	市の魅力発信、スポーツイベントへの協賛
日本生命保険相互会社	パラアスリートのスポーツ体験イベント参加や教室の実施



第2次東大阪市スポーツ推進計画 令和6（2024）年3月
 【発行】
 東大阪市 都市魅力産業スポーツ部 スポーツのまち推進室
 花園・スポーツビジネス戦略課
 〒577-8521
 東大阪市荒本北一丁目1番1号
 TEL：06-4309-3019/FAX：06-4309-3849